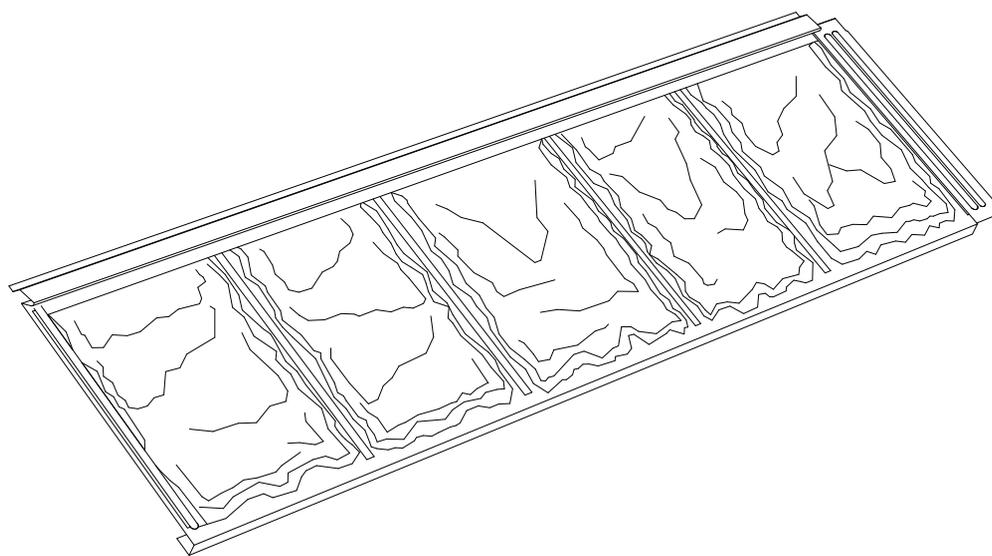


Sky Metal Roof

ストーンチップ鋼板屋根材 スカイメタルルーフ



Slate
スレート

施工説明書

Sky Metal Roof

ストーンチップ鋼板屋根材 スカイメタルルーフ

Slate
スレート

施工説明書

目次

施工の際の注意事項	2 ページ
本体規格・関連部材表	4 ページ
下地防水紙の施工	6 ページ
軒先唐草の施工	7 ページ
ケラバ捨板の施工	8 ページ
谷板金の施工	9 ページ
隅棟部の板金施工	10 ページ
本体の施工	
本体の基本施工	11 ページ
ケラバ部の張り出し	12 ページ
隅棟部の施工	13 ページ
谷部の施工	14 ページ
各部の仕上げ	
棟部の仕上げ	15 ページ
換気棟の仕上げ	16 ページ
隅棟の仕上げ	17 ページ
トリム（同質ケラバ）での仕上げ	18 ページ
壁際の施工	
タッチアップの施工	22 ページ
各部の納まり	
軒先・ケラバの納まり	23 ページ
棟・隅棟の納まり	24 ページ
換気棟・谷の納まり	25 ページ
壁際（桁・流れ方向）の納まり	26 ページ
トリム同質棟・隅棟の納まり	27 ページ
同質ケラバの納まり	28 ページ
既存薄板スレートカバー工法	
桁・流れ方向の納まり	29 ページ

スカイメタルルーフの施工前に以下の注意点を必ずお読みいただき厳守してください。



この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

- 1: 施工し際は、次ページの安全作業の心得を最低限遵守してください。
また、現場の作業環境に合わせた安全対策を徹底してください。
- 2: 屋根からの墜落を防止するために足場と防護ネットを設置するなどの対策を施してください。
- 3: 屋根材やその他関連部材や工具を落下・飛散・その他の事故を起こさないように、常に安全面を考慮して配置してください。近隣や歩行者その他のものに対し、人身・物損事故の恐れがあります。
- 4: 雨天・強風・降雪・雷鳴及び霜や屋根面がまだ濡れている場合は施工をしないでください。
落下や屋根上の部材の飛散・落雷事故などの恐れがあります。
- 5: 屋根材の端部および切断面の取り扱いには十分注意してください。裂傷を負う恐れがあります。



この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

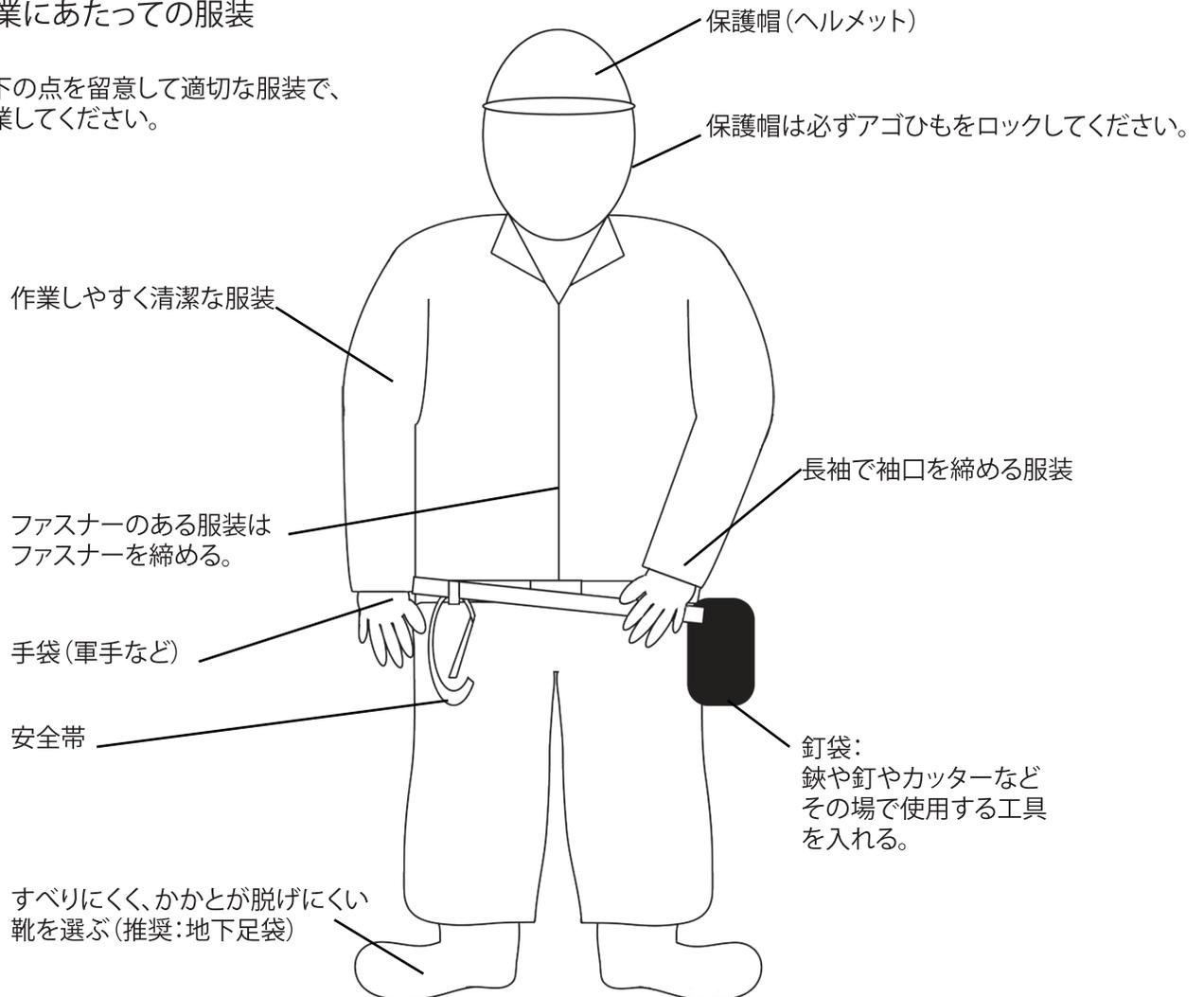
- 1: 建築地に適合した建築基準法やその他の法令を順守した仕様で施工してください。
- 2: 毎日の作業終了後は屋根面の清掃を行い、屋根上に部材や工具を残さないように作業を終了させてください。
作業時間外の天候悪化などにより、屋根上の部材が飛散する恐れがあります。
- 3: 屋根面に傷がついてしまった場合速やかにタッチアップし処理を行ってください。錆が発生する恐れがあります。
- 4: シーリング材などの現地調達部材はご使用方法を確認の上で正しく使用してください。
- 5: スカイメタルルーフは2.5寸勾配以上の屋根面には施工しないでください。
また9°以上の屋根面には施工しないでください
- 6: 防水を万全にするために下地防水紙は JIS A 6005規格品以上の性能の防水紙を使用してください。
- 7: 屋根材に留めつけるビスや釘はメッキの処理が規定以下のものを使用しないでください。
電飾作用が起き鋼板のアルミ層が腐食する恐れがあります。
- 8: 屋根材の切断は 丸鋸やチップソー・サンダーなどの高速回転型の切断機の使用はしないでください。
切断面の腐食の促進や切粉による錆の発生の恐れがあります。
- 9: 製品の保管は、地面に直接置かず、シートを敷き、台木に乗せ防水シートをかけてください。
- 10: 製品の搬出入の際は、製品に直接ワイヤー・ロープなどかけないでください。変形・キズの原因になります。
また屋根材を地面や屋根面で引きずったりすると擦り傷が発生して美観を損ねますので、取扱いには十分に注意して施工してください。

安全作業の心得

以下の点を順守し、常に安全第一を心がけて作業をしてください。

1:作業にあたっての服装

以下の点を留意して適切な服装で、作業してください。



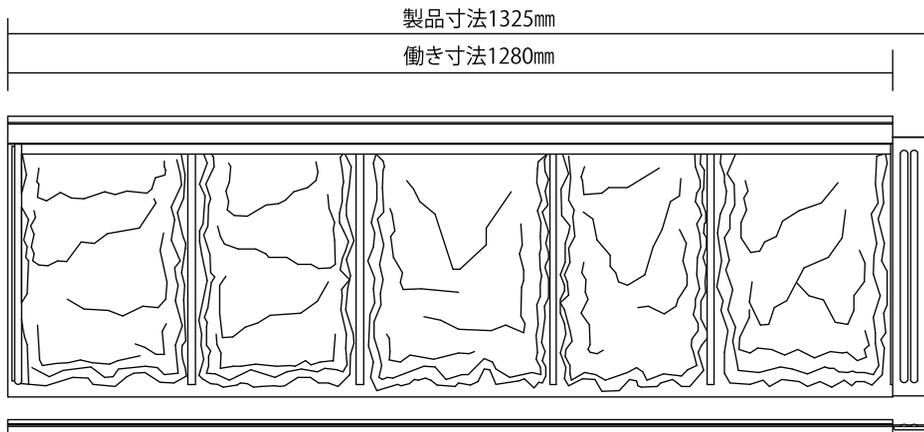
2:その他注意事項

- 現場内を走ったり飛び跳ねたりしない。
- 熱中症に十分気を付ける。
- 無理な姿勢で落下に結びつく危険な行為をしない。
- 危険と判断した時は 現場責任者・現場監督の指示を仰ぐ。
- はしごや瓦上げ機などの設置は注意事項を十分に理解して設置してください。

3:マナー

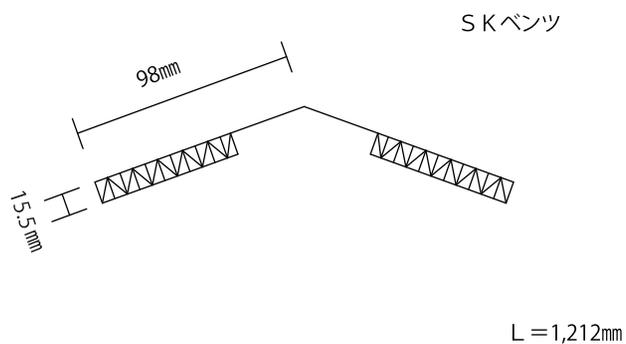
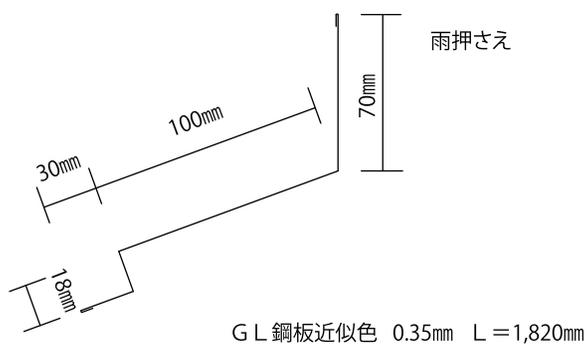
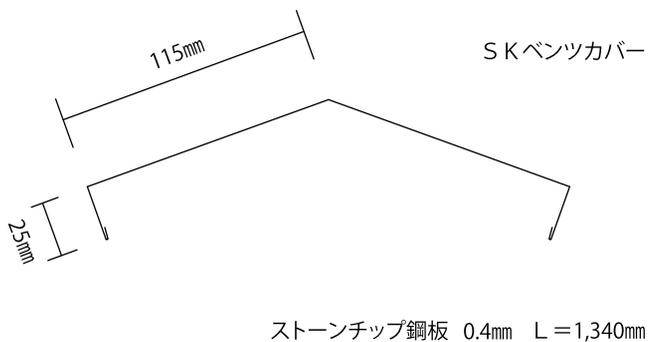
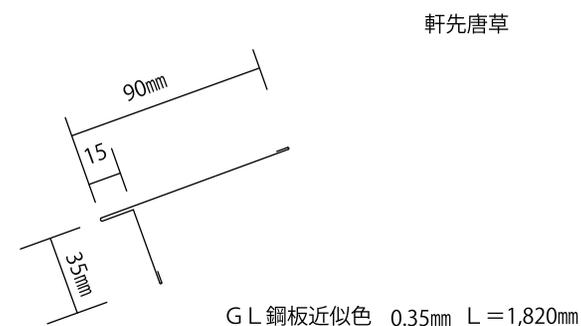
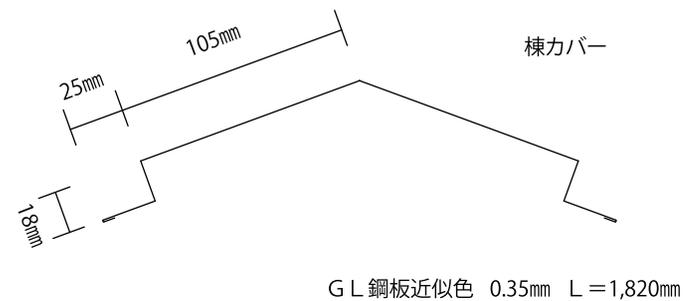
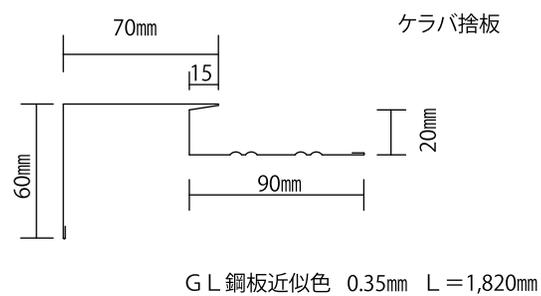
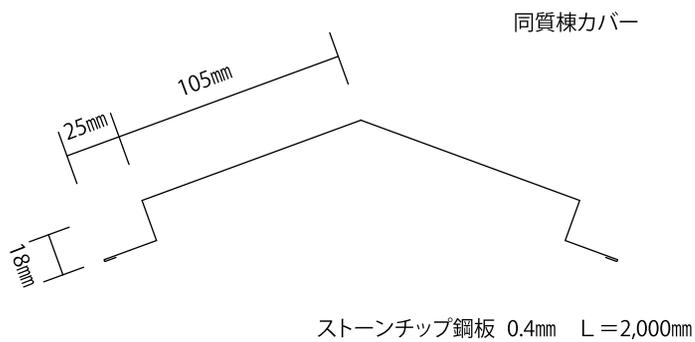
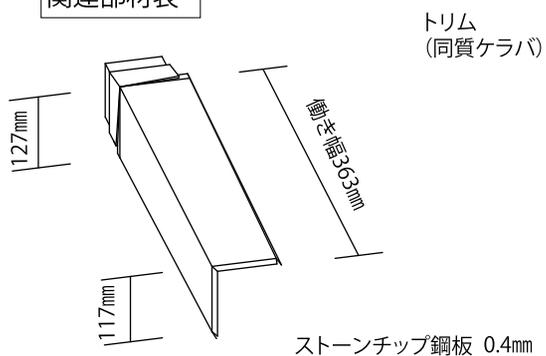
- 靴底はきれいにして屋根の上にかかるか、きれいなものに履き替える。
- 大きな声で話さない・仕事に関係ない雑談をしない・近隣のいえをのぞいたりしない

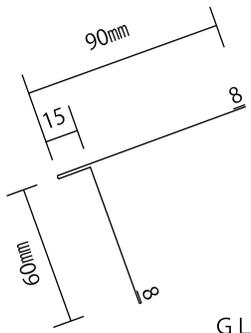
スカイメタルルーフ スレート
本体規格



- ストーンチップ鋼板 0.4mm
- 梱包枚数:10枚/ケース
- 1㎡必要枚数: 2.2枚
- 1枚の重量: 2.7kg
- 1㎡の重量: 5.75kg
- 施工可能勾配 2.5寸勾配以上

関連部材表

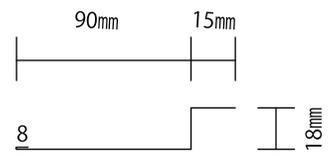




改修用軒先唐草

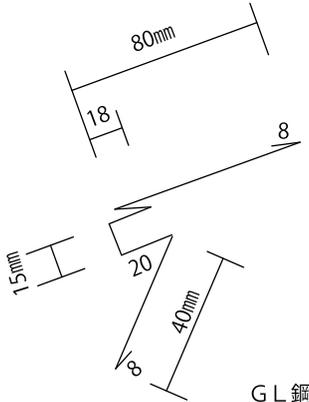
*瓦撤去後既存野地上に合板施工する場合や既存スレート屋根を撤去せずに合板を上張する場合に使用。

G L 鋼板近似色 0.35mm L=1,820mm



段捨板

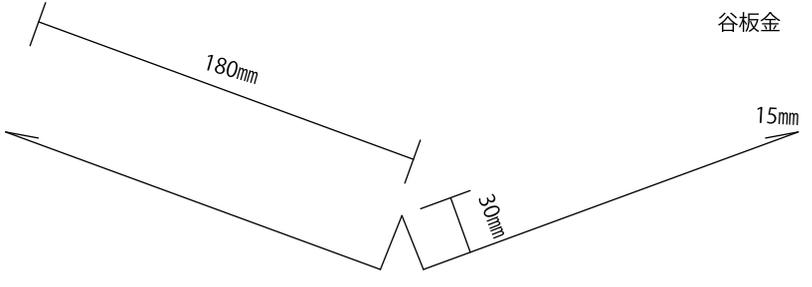
G L 鋼板チャコ_ル 0.35mm L=1,820mm



カバー工法スターター

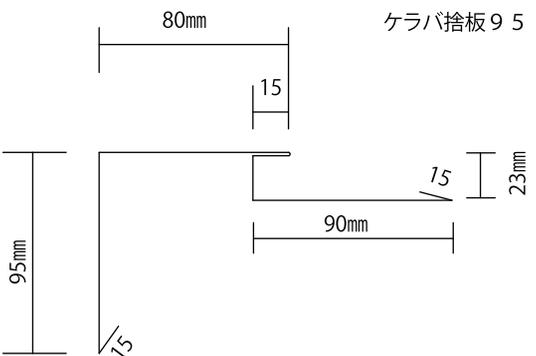
*既存スレート屋根を撤去せずにそのまま施工する際に使用。

G L 鋼板近似色 0.35mm L=1,820mm



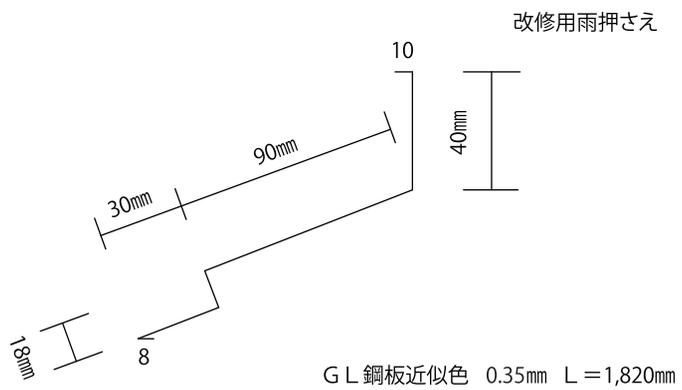
谷板金

G L 鋼板チャコール 0.35mm L=1,820mm



ケラバ捨板 9 5

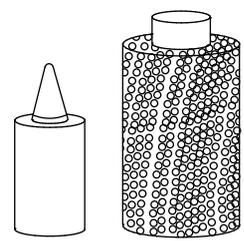
G L 鋼板近似色 0.35mm L=1,820mm



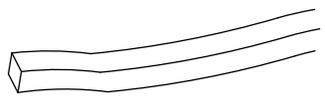
改修用雨押さえ

G L 鋼板近似色 0.35mm L=1,820mm

タッチアップ用石粒



エプトシーラー15mm



EPDM 15mm角 L=2,000mm

推奨本体切断用工具



マルコプロダクト MALCO M2006 板金鉄

*当社でのお取扱いはございません。ネットショップ又は金物販売店などでご購入をお願いします。

現地調達	*1 本体締結用ビス	9mm木材またはポリのスペーサー	推奨切断工具	○ミッドウエスト MIDWEST TOOL MIDWEST 6510L
	関連部材締結用ステンレス釘	シリコン		○マルコプロダクト MALCO MALCO TSHD ターボシャー HD 丸軸
	18×90mm木材	木材締結用のビス		○直徳 S W 鉄
	18×45mm木材	ほか現場状況に応じて必要な部材		

*1:太陽電池モジュール用架台 DY3 (株)ダイドーハント製の設置条件変更について:
 (株)ダイドーハント製キャッチ金物(DY3)を施工する際の設置条件について、JIS C 8955 :2017 (新 J I S 基準) 移行に伴い、屋根材留付ビスの仕様が下記のように変更となります。

旧:コーススレッド φ3.8×25
 新:薄板板金専用ビスφ4.2×25

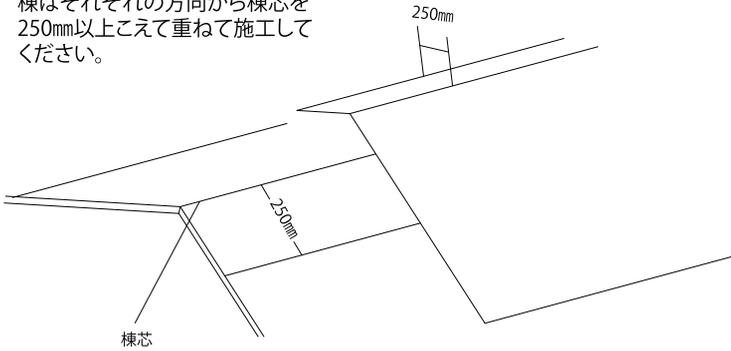
薄板板金専用ビスを使用しないと、新JIS基準を満たさない場合がありますのでご注意ください。

下地防水紙施工

下地防水紙は JIS A6005 以上の規格適合品を使用し、以下の要領で施工してください。

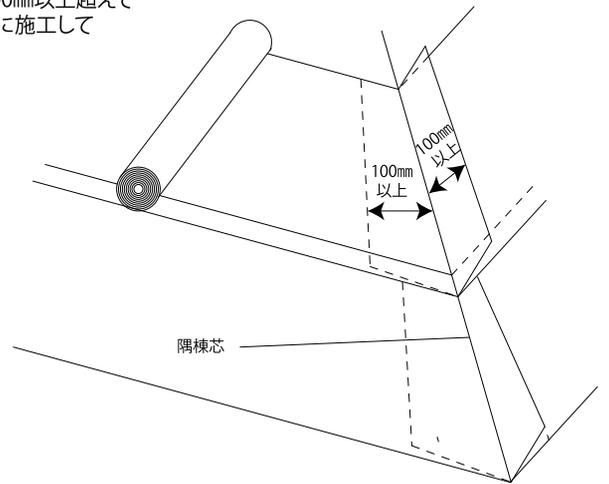
棟の下地防水紙の施工

棟はそれぞれの方向から棟芯を250mm以上こえて重ねて施工してください。



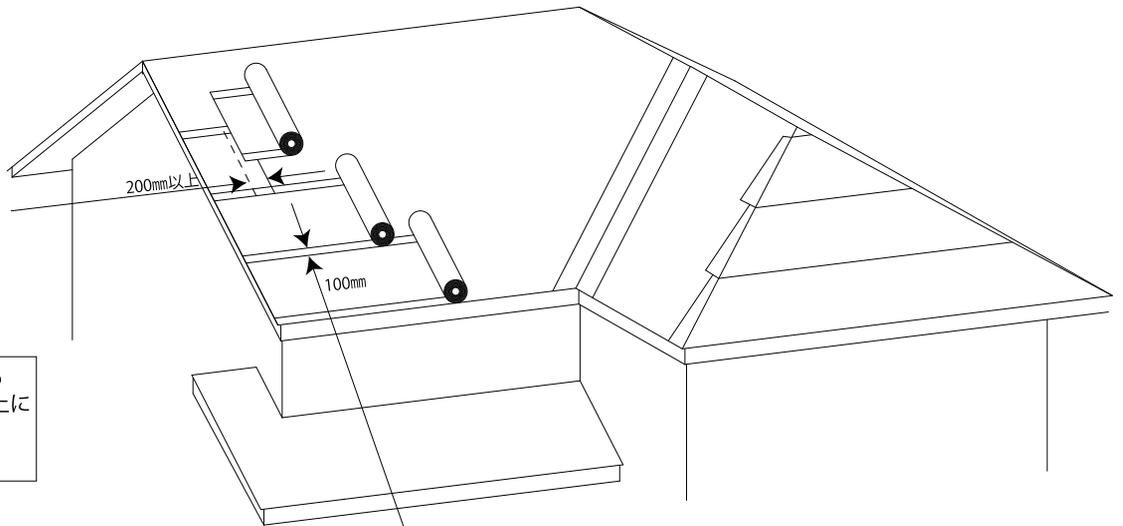
隅棟の下地防水紙の施工

隅棟は隅棟芯をそれぞれの方向から100mm以上重ねるように施工してください。



下地防水紙の基本施工

下地防水紙の左右の重ねは200mm以上重ねて施工してください。



下地防水紙はタッカーで留めつけます。タッカーは垂木上にできるだけ留めつけるように施工してください。

下地防水紙の上下の重ねは印刷されている100mmの重ねに合わせて重ねて施工してください

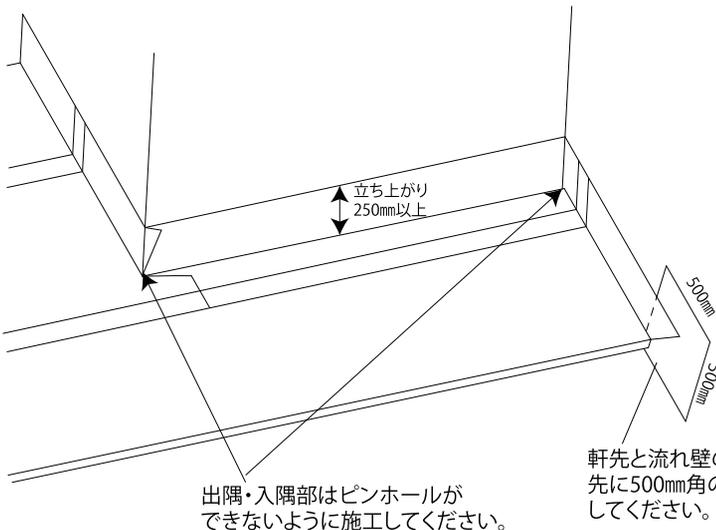
谷の下地防水紙の施工

谷は500mm幅の増し張りを谷芯をセンターに施工したあとにそれぞれの方向から100mm以上重ねるように施工してください。

壁際の下地防水紙の施工

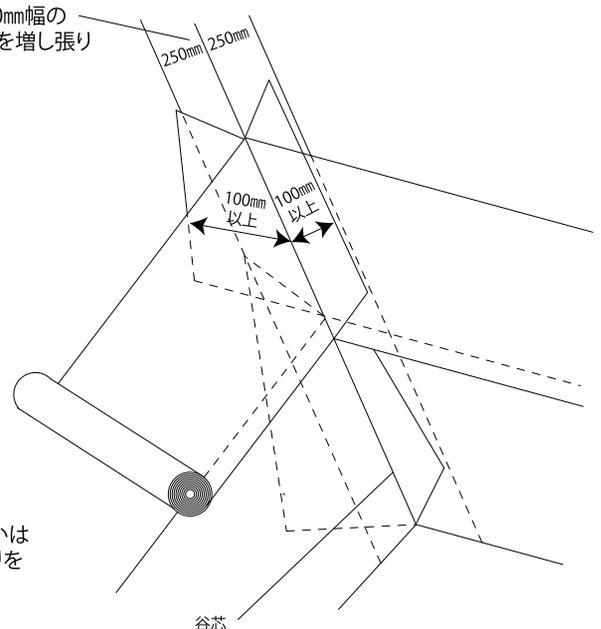
壁際は桁方向・流れ方向共に250mm以上立ち上げて施工し、出隅や入隅にピンホールが発生しないように注意してください。また軒先と流れ壁の取り合い箇所は下図のように捨て張を先に張ってください。

先行して500mm幅の下地防水紙を増し張り



出隅・入隅部はピンホールができないように施工してください。

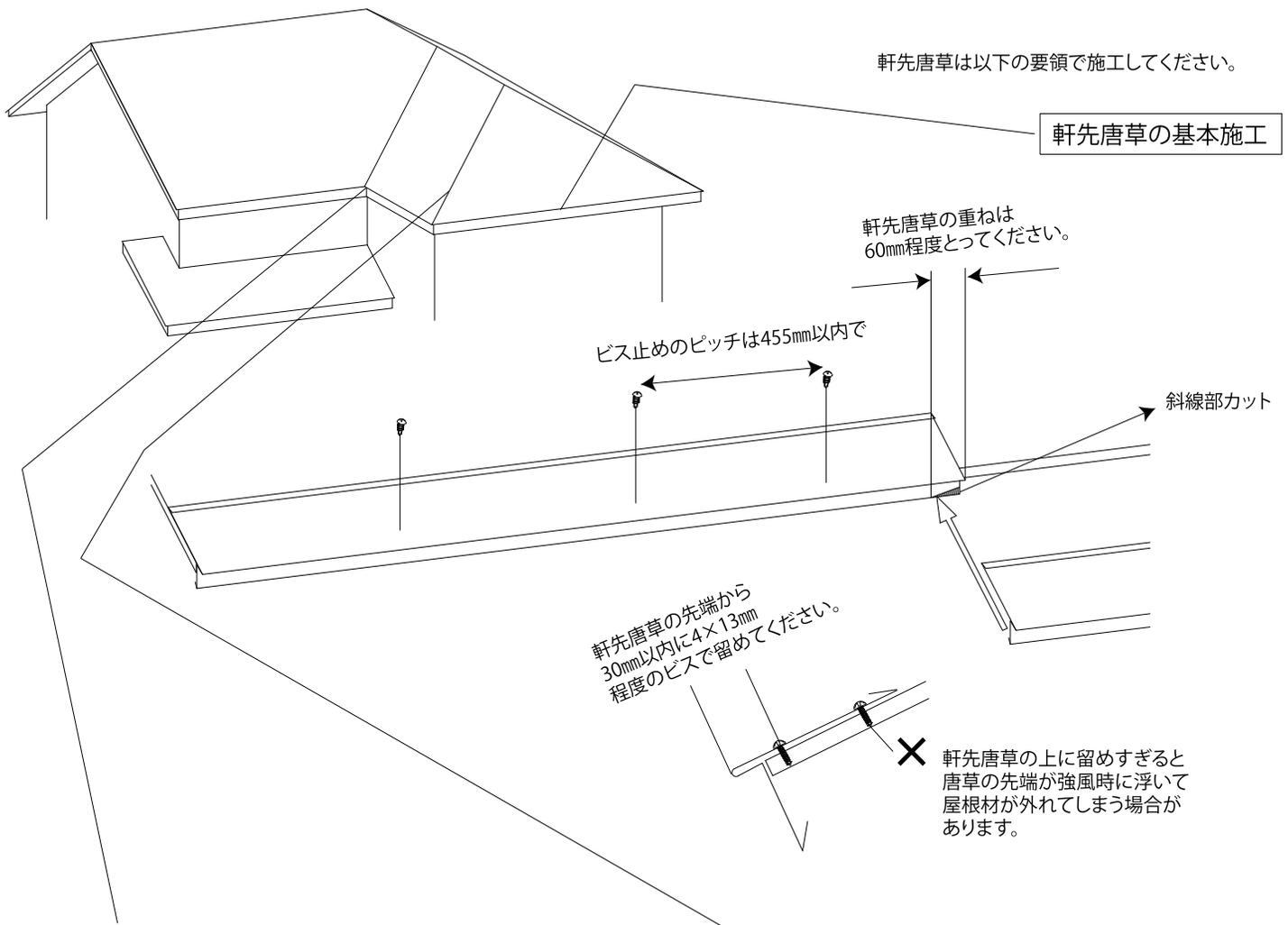
軒先と流れ壁の取り合いは先に500mm角の捨て張りをしてください。



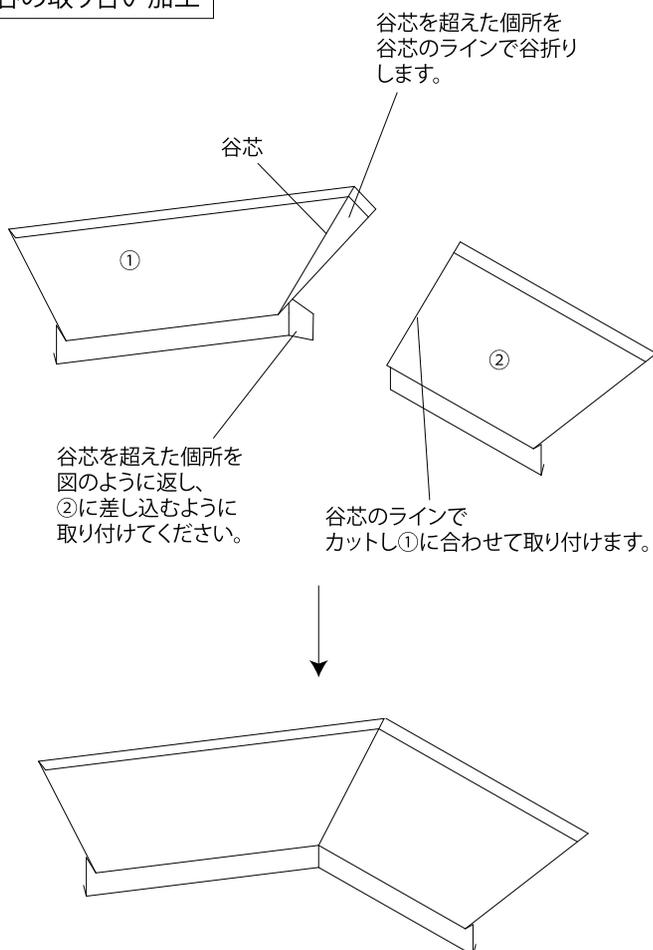
軒先唐草の施工

軒先唐草は以下の要領で施工してください。

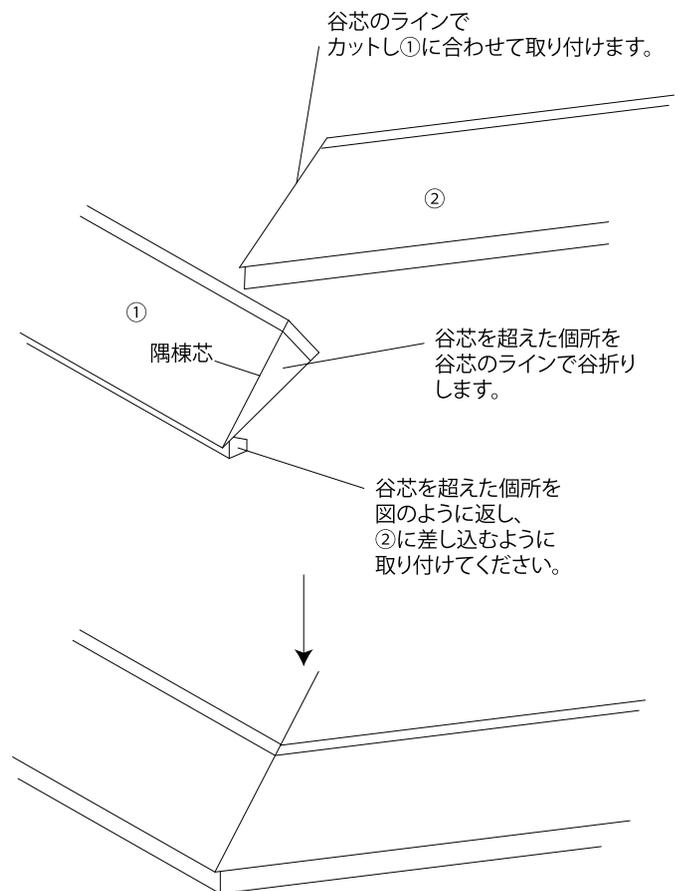
軒先唐草の基本施工



谷の取り合い加工

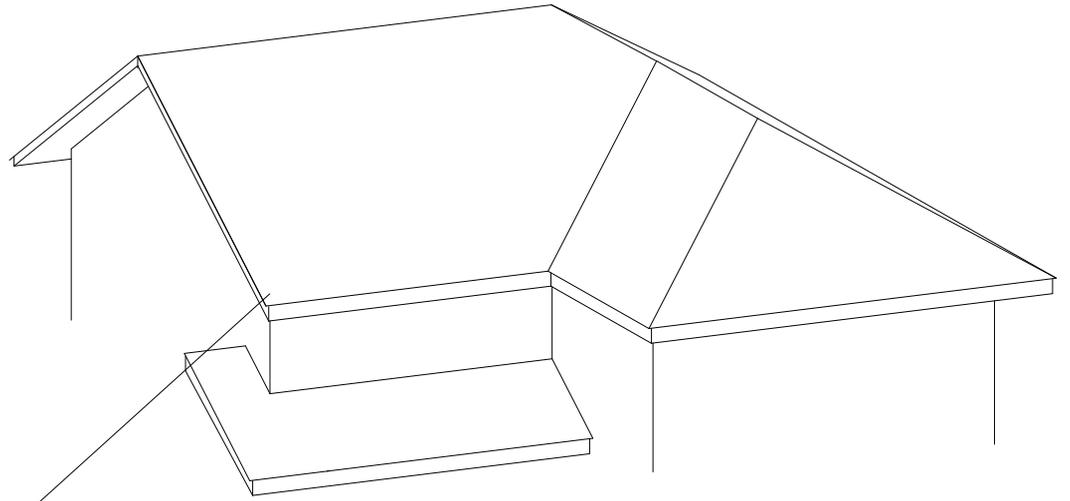


隅棟の取り合い加工

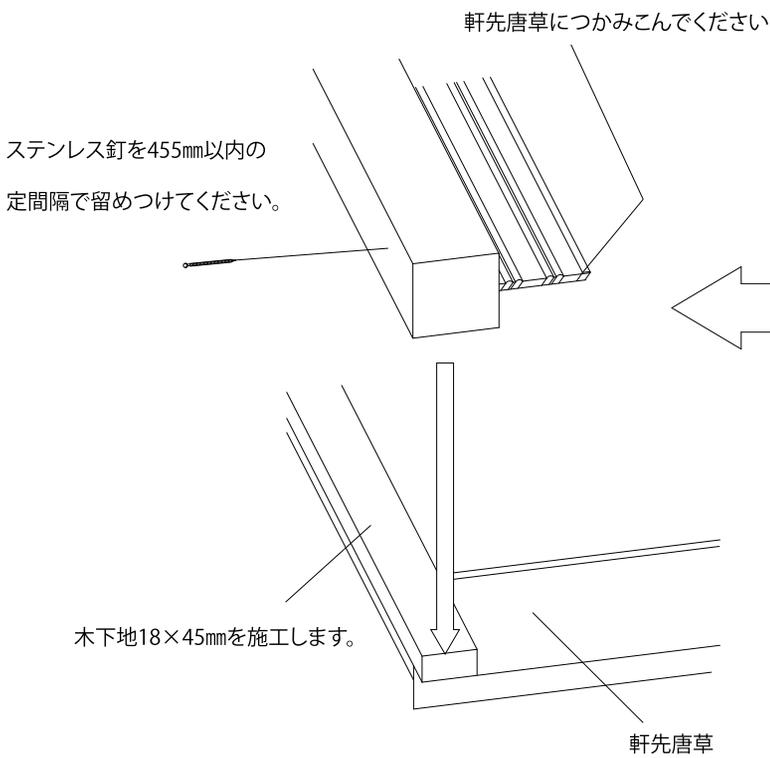


ケラバ捨板の施工

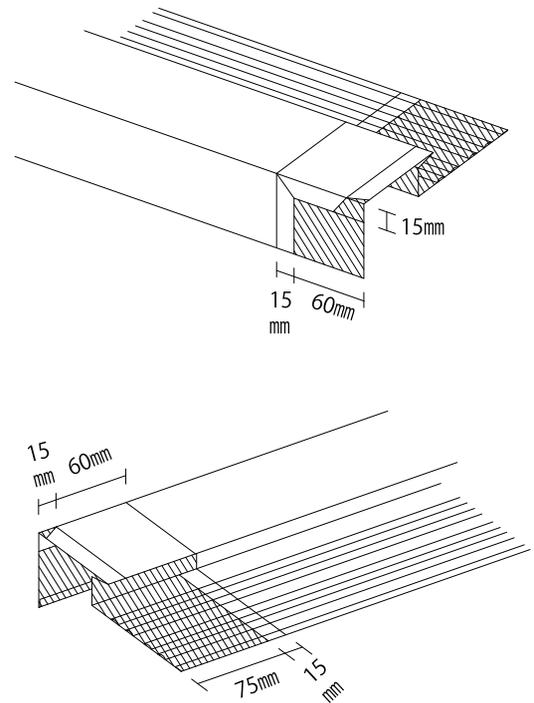
以下の要領で施工してください。



ケラバ捨板の隅の施工

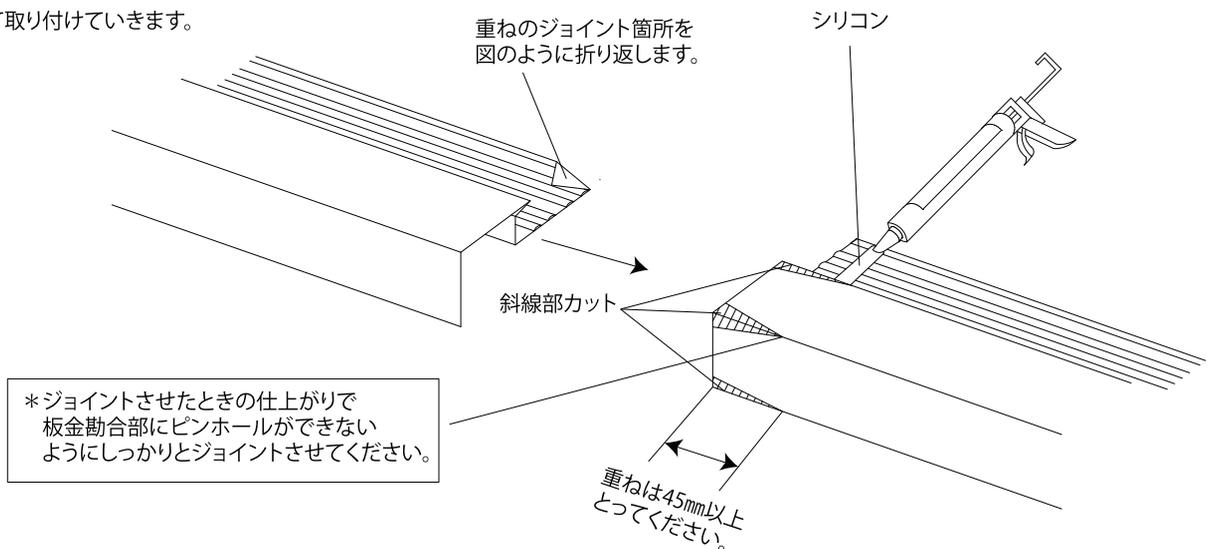


下図のようにけがき斜線部をカットして山折りに加工します。



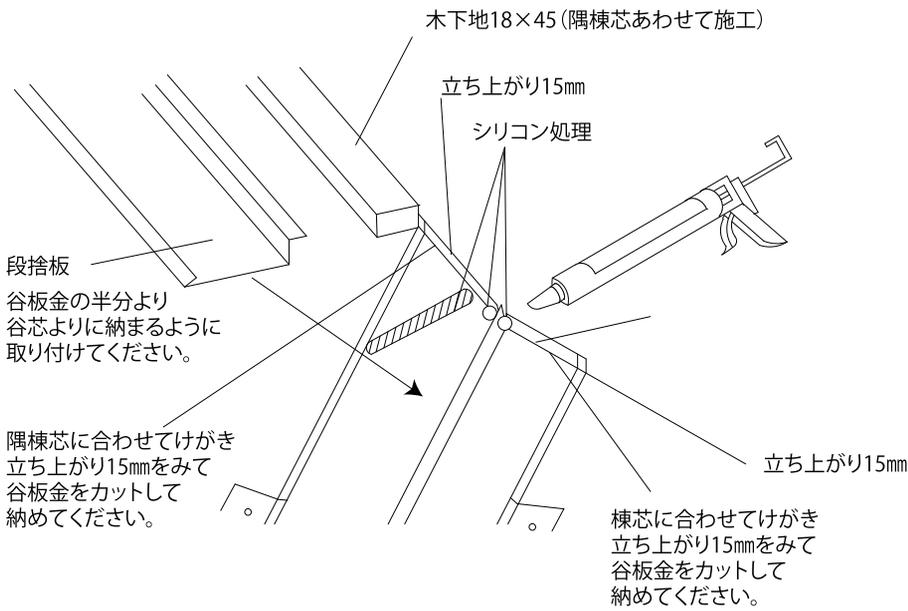
ケラバ捨板のジョイント

以下の注意点を守って取り付けしていきます。



谷板金の施工

以下の要領で施工してください。

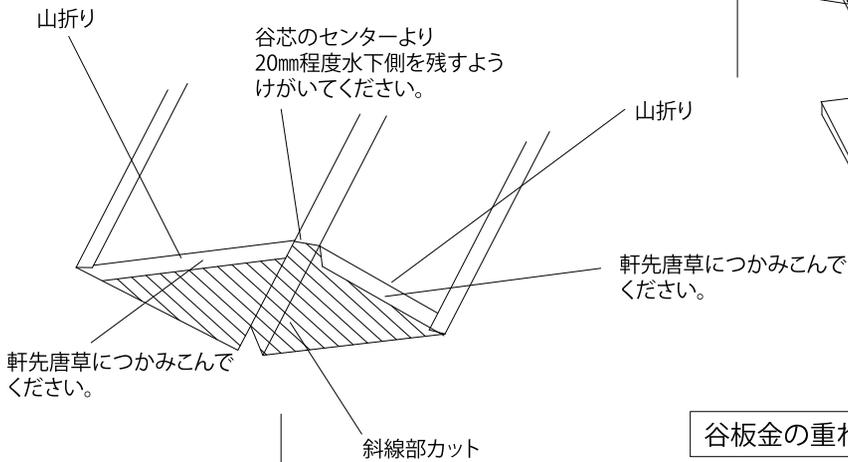


水上の隅棟との取り合い

左図の要領で施工してください。

谷板金の軒先の取り合いの加工

谷板金と軒先が取り合う箇所は谷板金を谷芯に合わせて軒先のラインを書き出した後、以下のようにけがき、斜線とカットして、それぞれ山折りして加工してください。



谷板金の重ね

以下の要領で施工してください。

つまんで折り返してください。(ピンホールができればよいのでその場合は該当箇所をシリコン処理して下さい。)

谷板金は吊子(現地調達品)で600mm以下の間隔で留めつけてください。

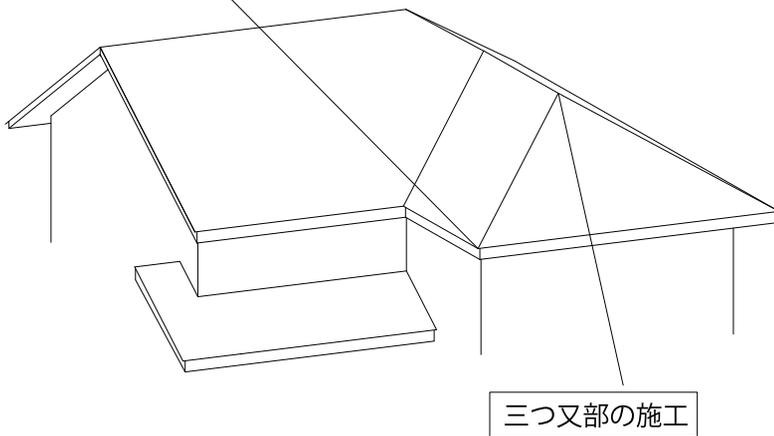
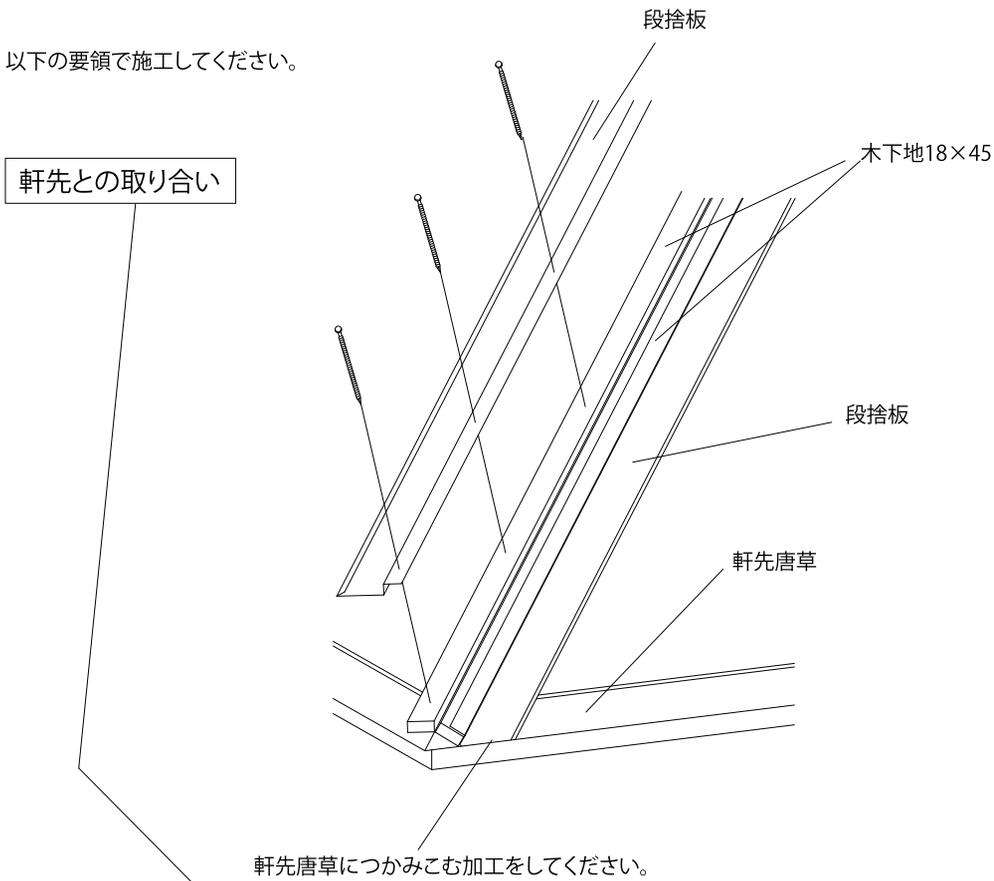
谷板金の重ねは100mm以上とってください

谷板金の重ねにシリコン2条を施工します。

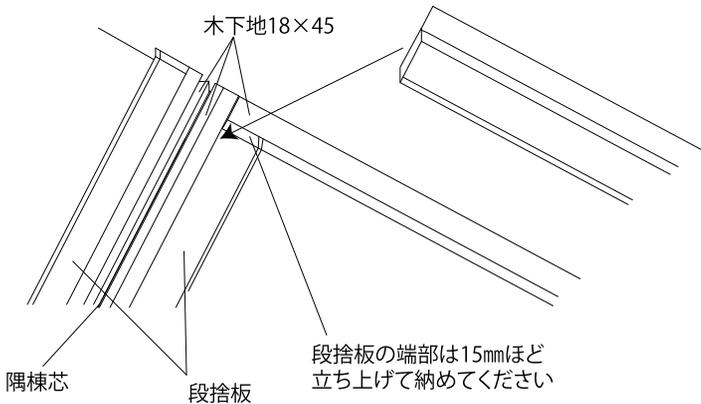
隅棟部の板金施工

隅棟部は最初に隅棟芯に合わせて
木下地18×45を施工した後
段捨板を木下地18×45に留めつけます・

以下の要領で施工してください。

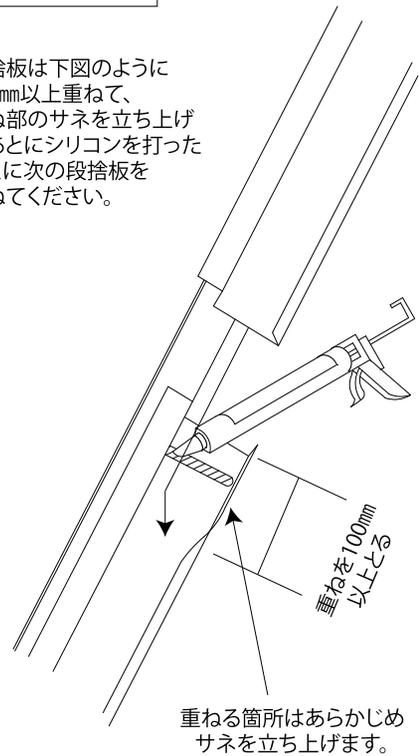


三つ又部はそれぞれの方向からの隅棟に施工した
木下地18×45を突きつけて、段捨板を取り付けます。
段捨板の端部は15mmほど立ち上げて納まるようにしてください。



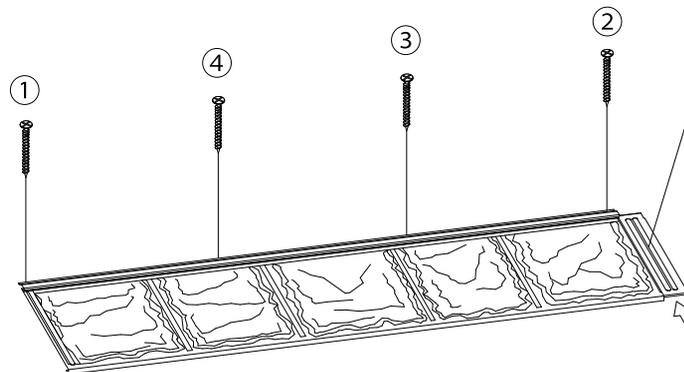
段捨板の重ね

段捨板は下図のように
100mm以上重ねて、
重ね部のサネを立ち上げ
たあとにシリコンを打った
あとに次の段捨板を
重ねてください。



本体の留め付け

本体はまず左右の位置をしっかりと決めて、上下の勘合を合わせます。足等でしっかり勘合の奥までかませた後、本体の留めつけは下図の通り、①のビスを本体のできるだけ左端部に打ってください、次に②のビスを打つ前に 再び本体右端部を足等でしっかり勘合の奥まで本体をかませビスを打ち、そのあと③・④とビス止めしていきます。(③・④は順序関係ない)ビスはできるだけ均等な間隔で留めつけてください。



*釘打ちの場合は5本止めしてください。

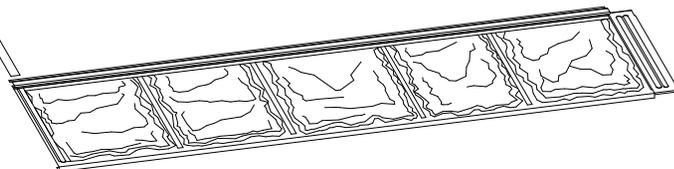
本体の施工(必須事項)

本体の基本的な施工は以下の注意点を守って施工してください。

本体の横の勘合

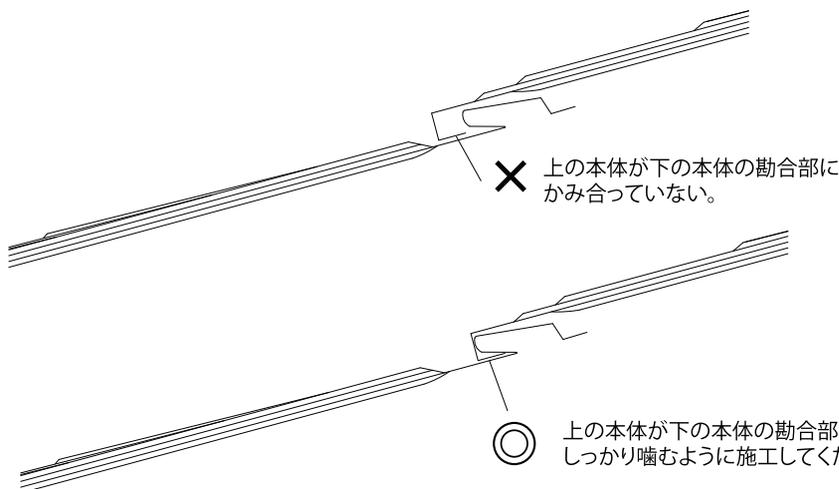
本体の横の勘合はA部に次の本体を重ねて施工していきます。重ね部が見えないようにしっかりと施工してください。

A:本体右端部50mmの重ね部



本体の上下の勘合

左図の注意点をまもって本体の上下勘合が施工後外れてしまわないようにしっかりと勘合して下さい。

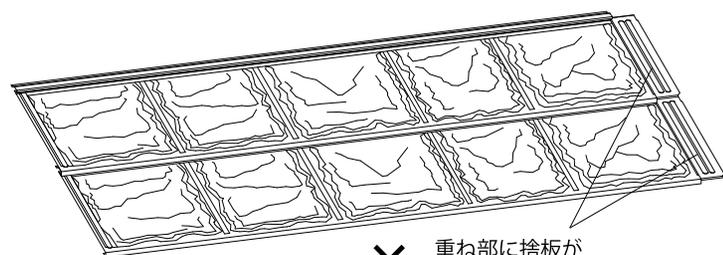


✕ 上の本体が下の本体の勘合部にかみ合っていない。

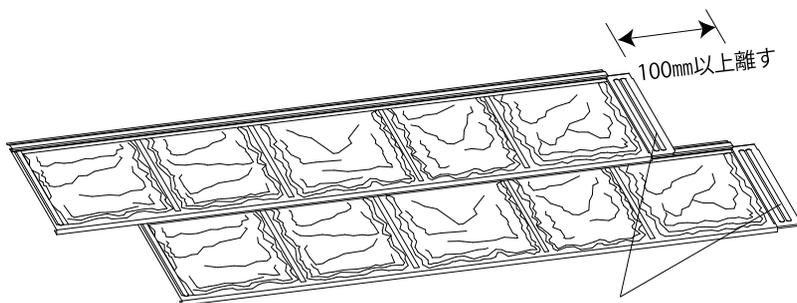
○ 上の本体が下の本体の勘合部にしっかりと噛むように施工してください。

本体揃え葺きの禁止

本体の上下の重ね部は左の図の通り上下の本体の横勘合部が同じ位置に来ないように、施工してください。



✕ 重ね部に捨板がそろると、重ね下の水量が多くなってしう。

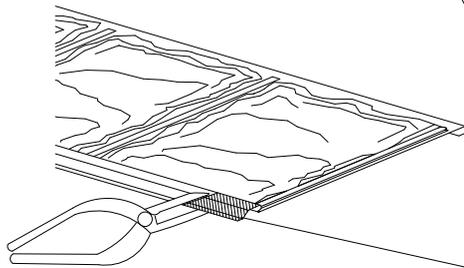
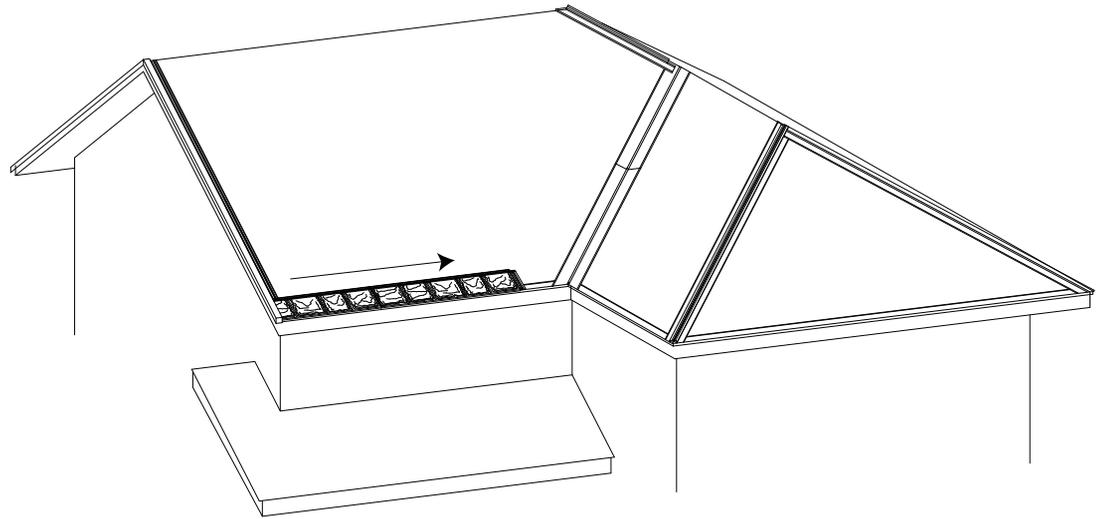


○ 上下の段の本体どおしの横勘合部は100mm以上離して施工してください。

本体の施工 (必須事項)

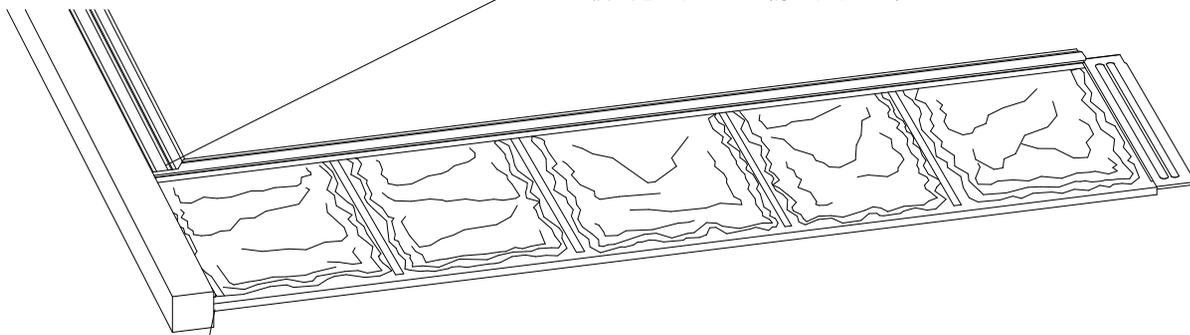
ケラバ部の張り出し

ケラバまわりの本体は以下の要領で施工してください。

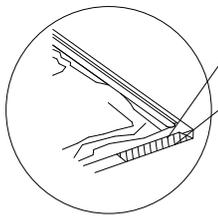


ケラバ捨板と取り合う箇所の箇所の本体を斜線部のようににカットします。

*ケラバ捨板からささった雨水が本体ビスうちの箇所を横に走っていくのを防止するため。



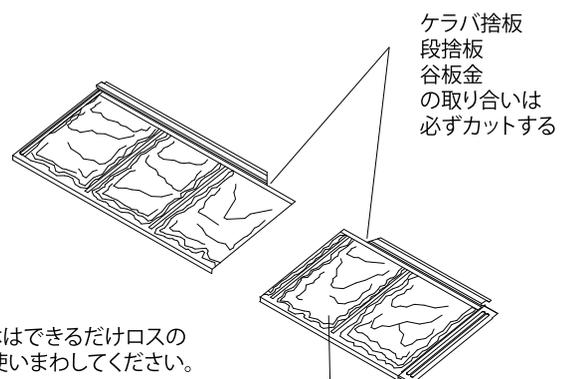
本体前端部の軒先唐草にかかる箇所の ケラバ捨板と取り合う箇所(斜線部)はケラバ捨板の排水をよくするためにカットしてください。



本体のカット

ケラバ方向の本体のカットは寸法を測りカットラインを本体にけがき、推奨の板金切断工具等でカットしてください。

カットした本体はできるだけロスの出ないように使いまわしてください。



カットした残りの本体は次の段の張り始めなどで効率よく使用してください。

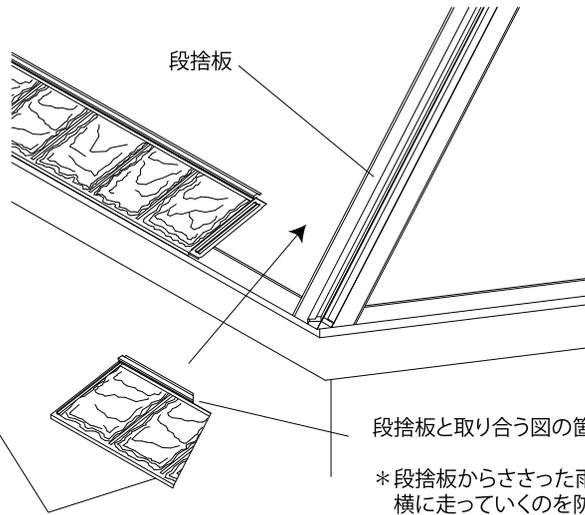
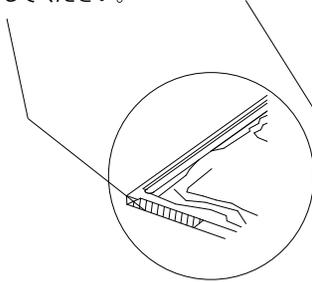
*サンダーや丸鋸などでのカットは切り口から錆が発生する恐れがありますので、使用を避けてください。

本体の施工 (必須事項)

隅棟部の施工

隅棟まわりの本体は以下の要領で施工してください。

本体前端部の軒先唐草にかかる個所のケラバ捨板と取り合う箇所(斜線部)はケラバ捨板の排水をよくするためにカットしてください。

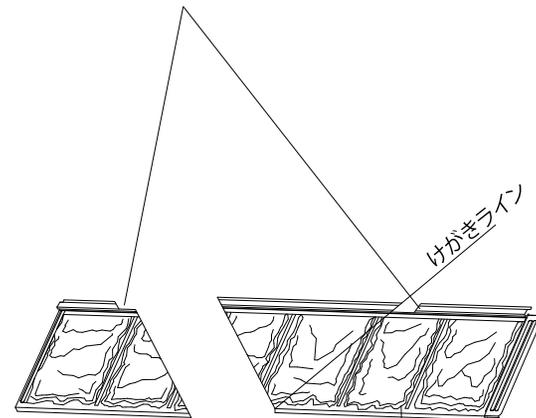


段捨板と取り合う箇所の本体端部を図のようにカットします。

* 段捨板からささった雨水が本体ビスうちの箇所を横に走っていくのを防止するため。

本体のカット

ケラバ方向の本体のカットは寸法を測りカットラインを本体にけがき、推奨の板金切断工具等でカットしてください。



カットした本体はできるだけロスの出ないように使いまわしてください。

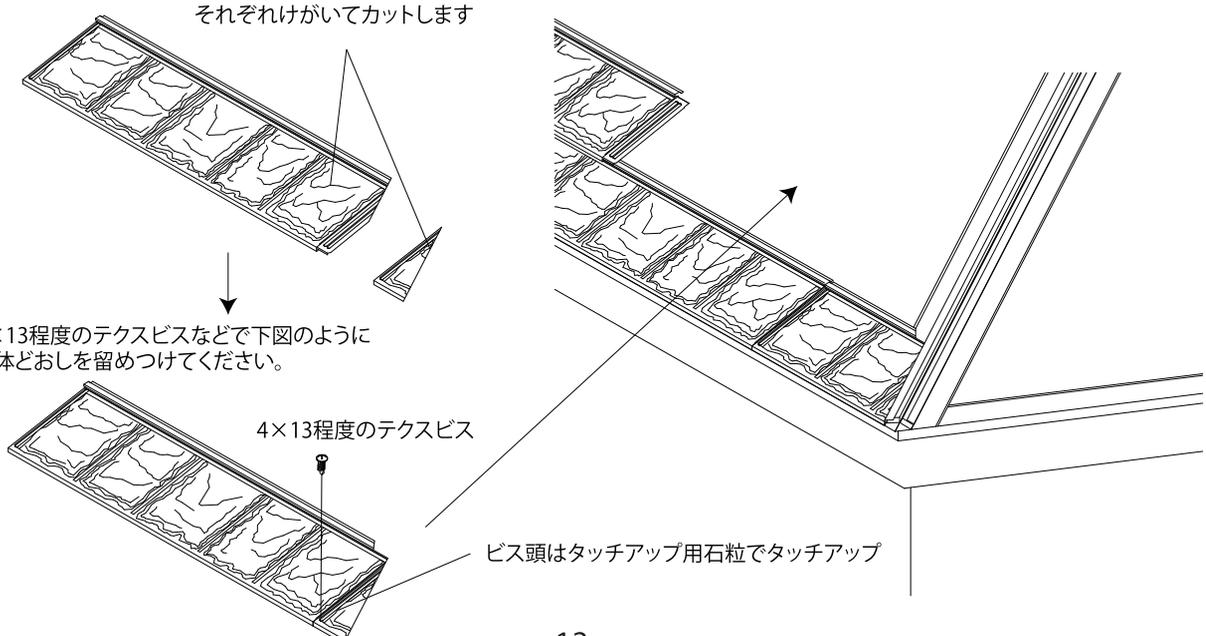
カットした残りの本体は次の段の張り始めなどで効率よく使用してください。

* サンダーや丸鋸などでのカットは切り口から錆が発生する恐れがありますので、使用を避けてください。

隅棟との取り合いに小さい本体が入るとき

それぞれけがいてカットします

4×13程度のテクスビスなどで下図のように本体とおしを留めつけてください。



4×13程度のテクスビス

ビス頭はタッチアップ用石粒でタッチアップ

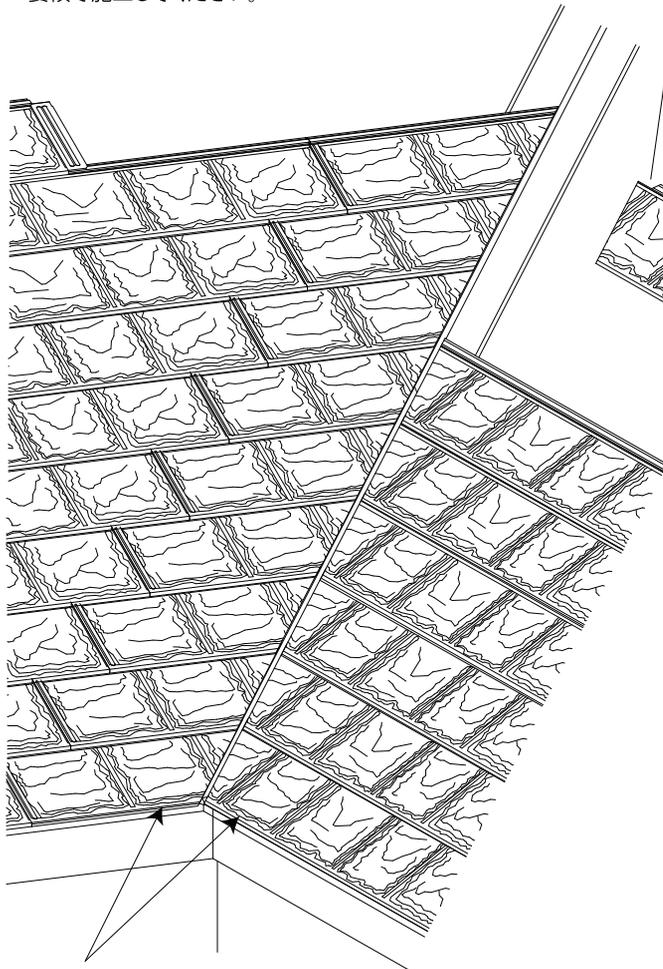
本体の施工(必須事項)

谷部の施工

谷まわりの本体は以下の要領で施工してください。

谷板金と取り合う箇所の箇所本体端部をカットします。

* 谷板金からささった雨水が本体ビスうちの箇所を横に走っていくのを防止するため。



本体のカット

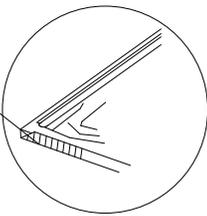
ケラバ方向の本体のカットは寸法を測りカットラインを本体にけがき、推奨の板金切断工具等でカットしてください。

カットした本体はできるだけロスの出ないように使いまわしてください。

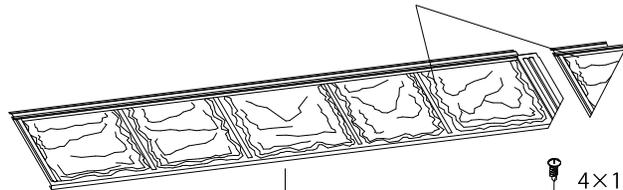
カットした残りの本体は次の段の張り始めなどで効率よく使用してください。

* サンダーや丸鋸などでのカットは切り口から錆が発生する恐れがありますので、使用を避けてください。

本体前端部の軒先唐草にかかる箇所の谷板金と取り合う箇所(斜線部)は谷板金捨板の排水をよくするためにカットしてください。

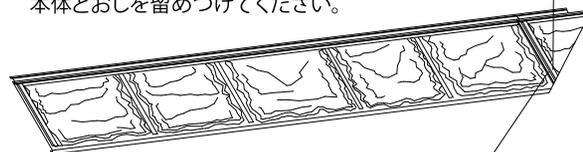


それぞれけがいてカットします



4×13程度のテクスビス

4×13程度のテクスビスなどで下図のように本体どおしを留めつけてください。

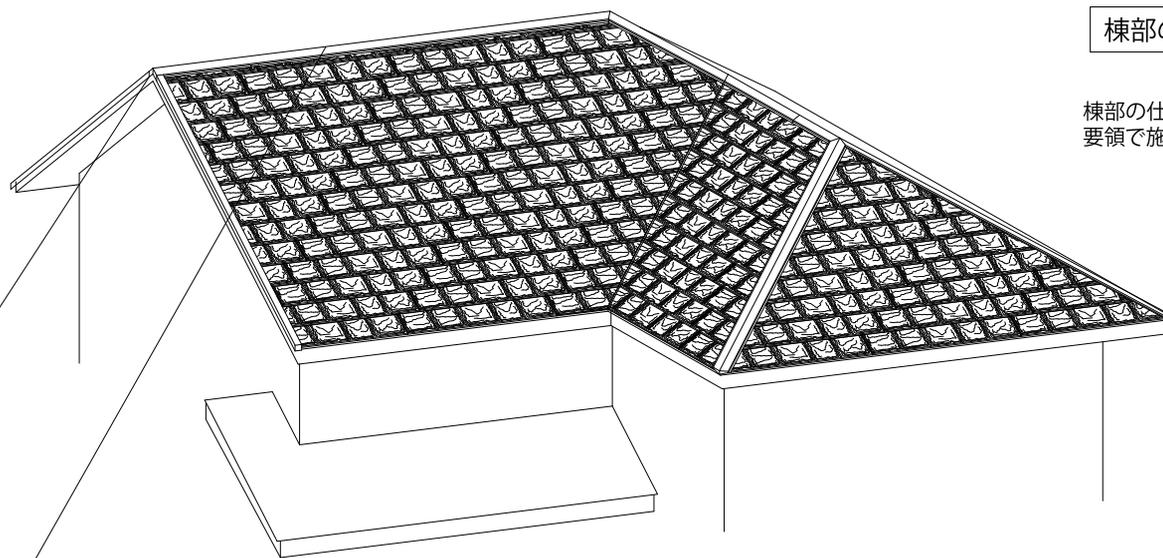


ビス頭はタッチアップ用石粒でタッチアップ

谷の割り付けで小さい本体が入るとき

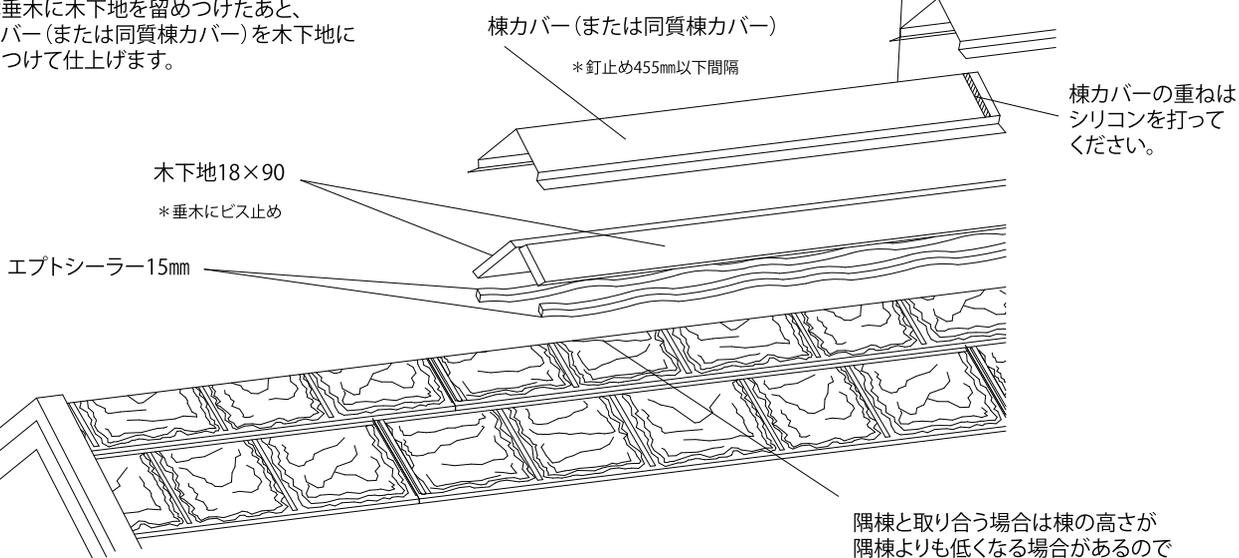
棟部の仕上げ

棟部の仕上げは以下の要領で施工してください。



棟の仕上げは棟カバーを仮あてして木下地の位置を決めて
チョークラインで木下地の墨出しをしたあと、
木下地にエプトシーラー15mmを張り付けて、
躯体垂木に木下地を留めつけたあと、
棟カバー（または同質棟カバー）を木下地に
留めつけて仕上げます。

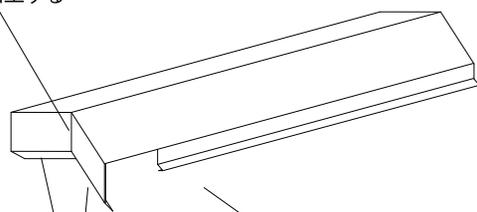
棟カバーの重ねは100mm以上とる



隅棟と取り合う場合は棟の高さが隅棟よりも低くなる場合があるのでその場合は9ミリ程度のスペーサーなどを棟際の本体下にあらかじめ入れて高さを調節してください。
*納まり図参照

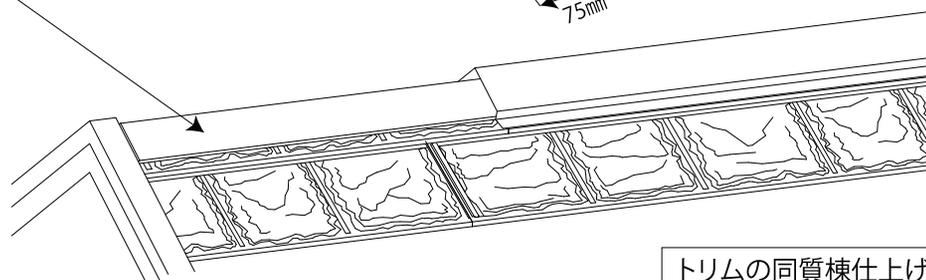
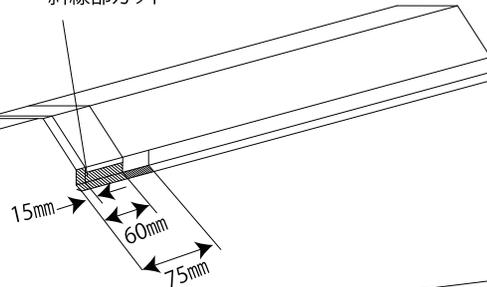
妻部の取り合いの仕上げ: 下の図を参考にしながら端部の加工をして納めてください。

屋根勾配に合わせて鉛直に仕上がるように加工する



ケラバ部材のたれにつかみこむ

斜線部カット

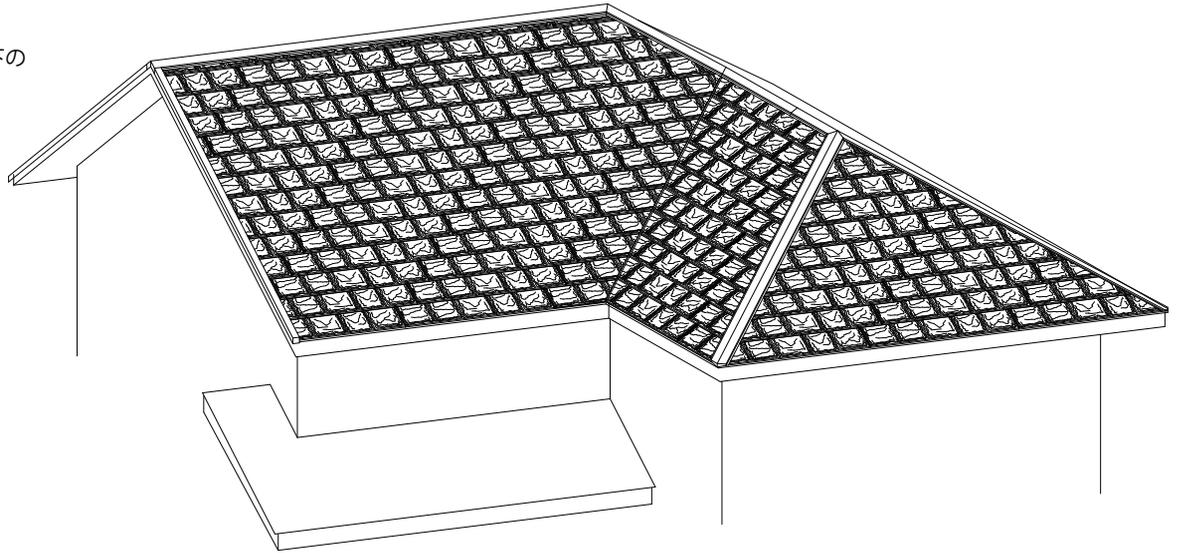


トリムの同質棟仕上げの場合は27ページの納まり図を参照ください

各部の仕上げ

換気棟の仕上げ

換気棟を使用する場合以下の要領で施工してください。



換気棟の施工は下図の通りに下地屋根合板に開口を開けます。
そのあとに通常の棟を仕上げた後に S K ベンツにエプトシーラー15mmを張り付けた後に開口部に設置し、木下地⇒S K ベンツカバーの順に施工します。

S K ベンツを2本以上連結する場合
ジョイント部にそれぞれシリコンを
打ってください。

S K ベンツカバー

*釘止め455mm以下間隔

木下地18×90

*垂木にビス止め

S K ベンツ

*垂木にビス止め

エプトシーラー15mm

棟仕上げ

10mm程度棟カバーを立ち上げる

10mm程度棟カバーを立ち上げる

棟仕上げ

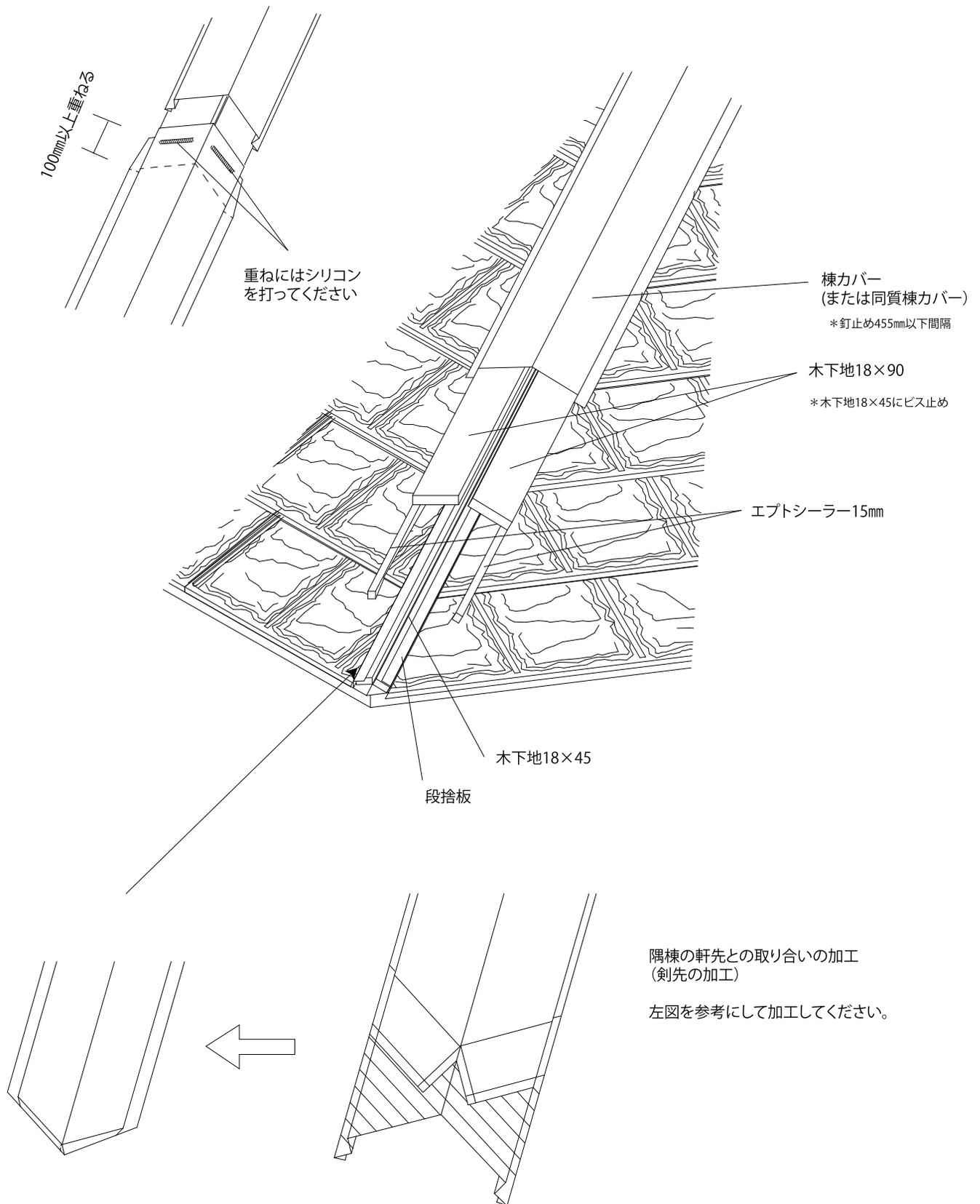
下地合板の開口は
左右15mmずつ30mm
あけてください

各部の仕上げ

隅棟の仕上げ

棟カバーのジョイントはシリコンを下打ちした後
100mm以上重ねてください。

棟部の仕上げは以下の
要領で施工してください。



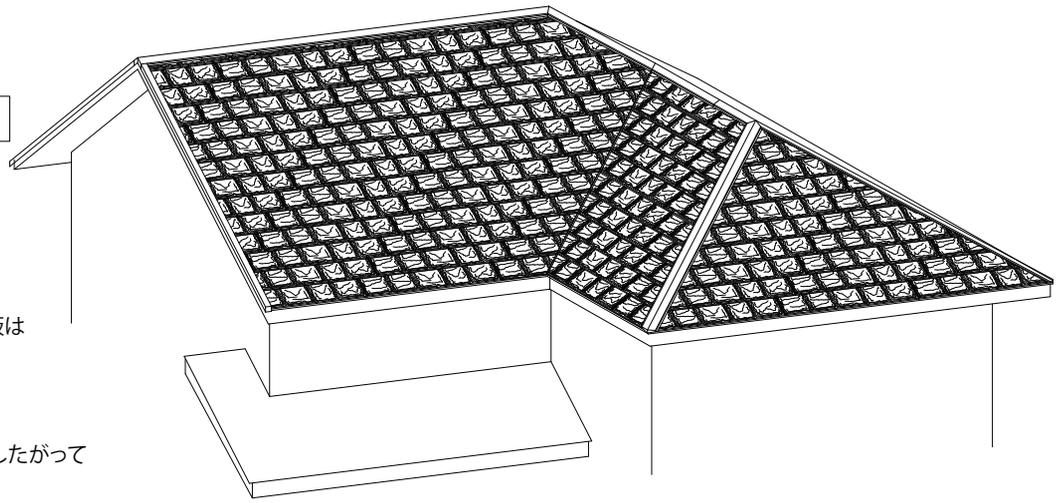
トリムの同質棟仕上げの場合は
27ページの納まり図を参照ください

各部の仕上げ

トリム(同質ケラバ)での仕上げ

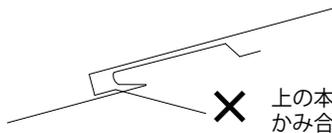
トリム(同質ケラバ)施工時はケラバ捨板は
しません。 本体施工前に木下地
18×45を施工後 段捨板を取り付け
本体を施工します。

トリム(同質ケラバ)は以下の注意点にしたがって
取り付けてください。

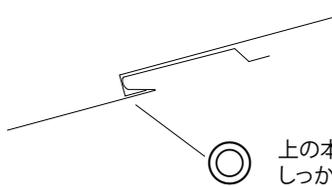


トリム(同質ケラバ)

トリム同士は下図の通り
下の段の上サネにトリム
前端部を合わせて取り付け
てください。



✕ 上の本体が下の本体の勘合部
にかみ合っていない。



◎ 上の本体が下の本体の勘合部
にしっかり噛むように施工してください。

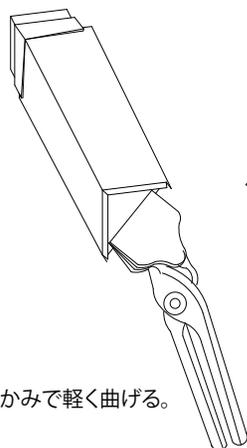
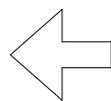
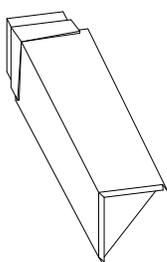
段捨板(ケラバ捨板は使用しない)

木下地18×45

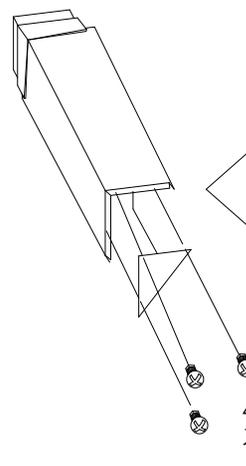
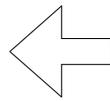
同質ケラバ端部の加工

以下の手順で加工してください。

本体の端材を150mm角に
カットして対角にけがき
2つにカットします



端部をつかみで軽く曲げる。

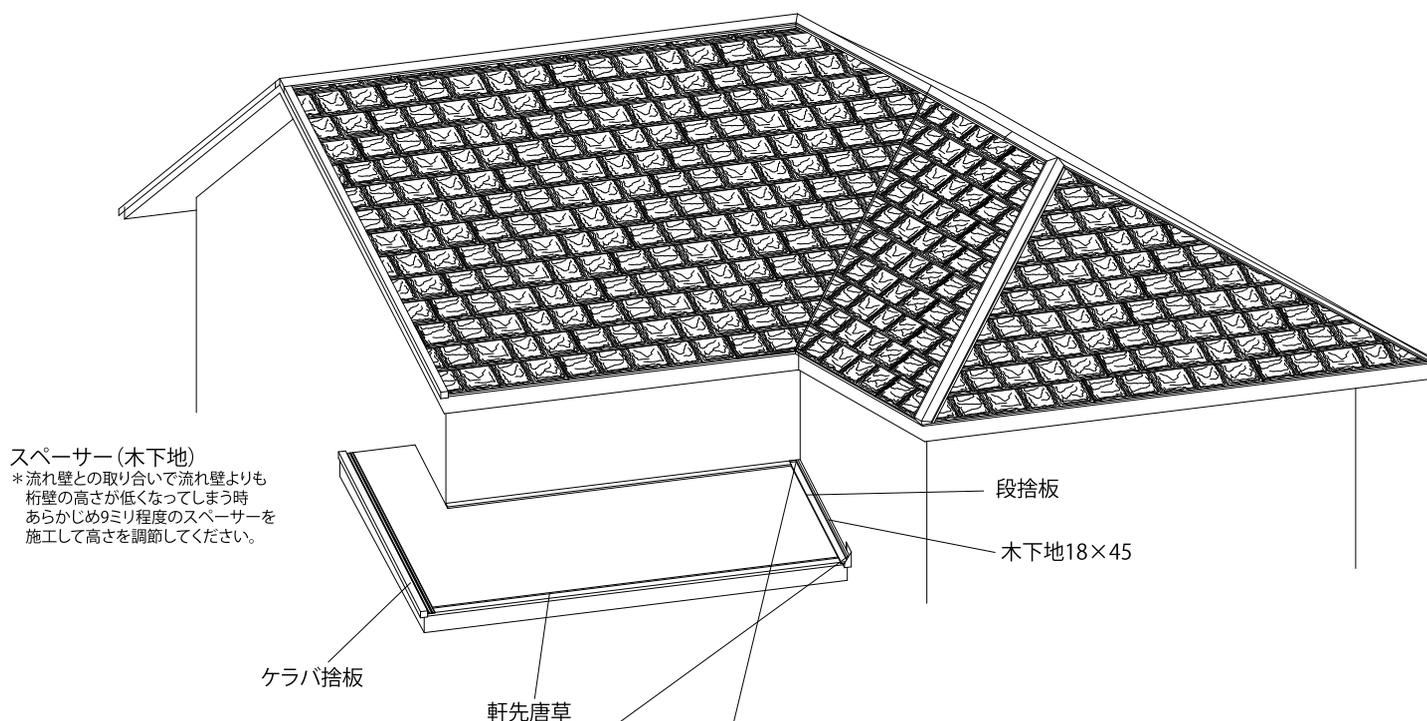


150mm
150mm

4×13程度の
ステンレス角ビス

本体施工前の板金・木下地の施工

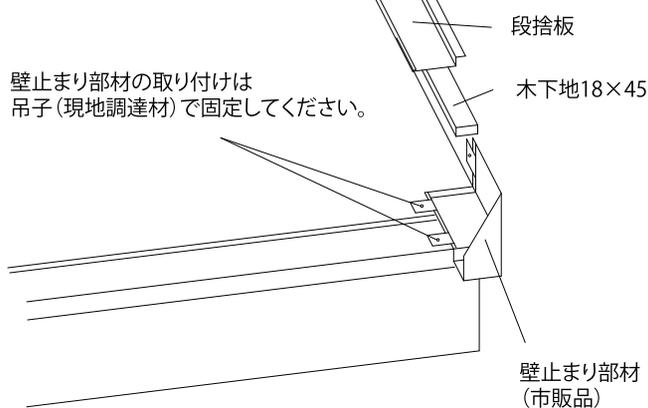
下図のように板金部材・木下地を施工していきます。



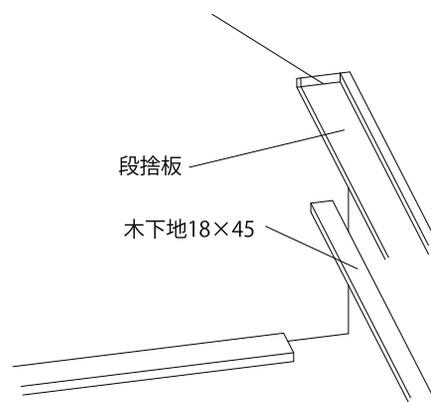
壁止まり部材の取り付け

流れ壁と軒先の取り合い部は下図のように市販の壁止まり部材を取り付けてから木下地18×45と段捨板を取り付けてください。

壁止まり部材の取り付けは吊子(現地調達材)で固定してください。



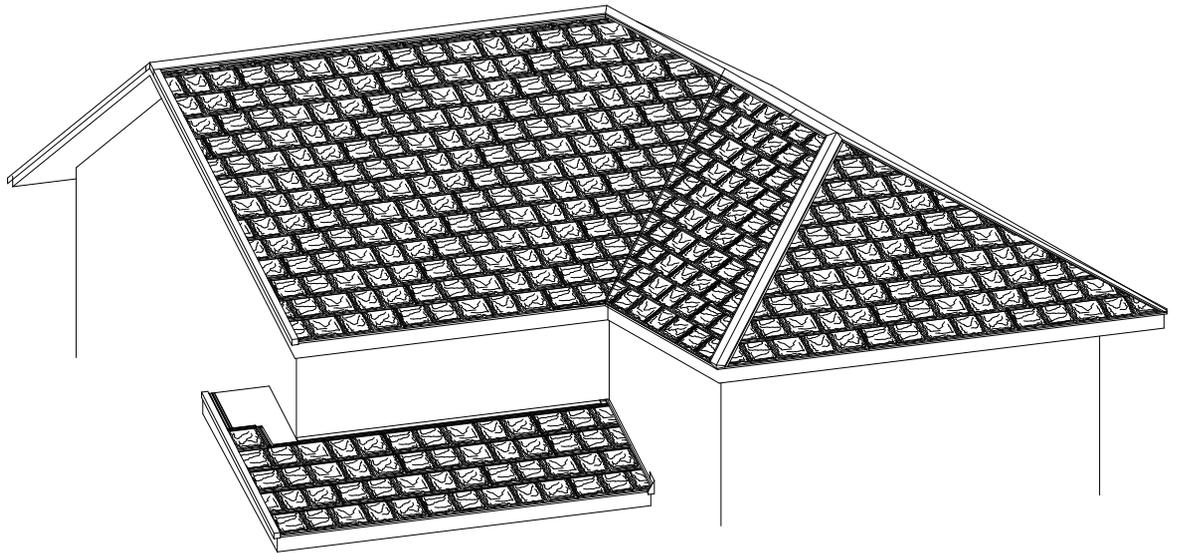
入隅部の段捨板は図のように15mm程度立ち上げて施工してください。



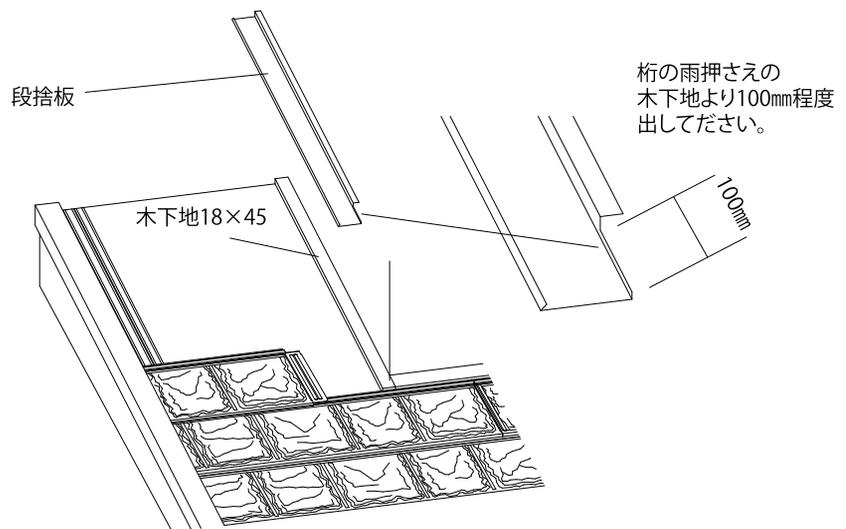
壁際の施工

出隅の施工

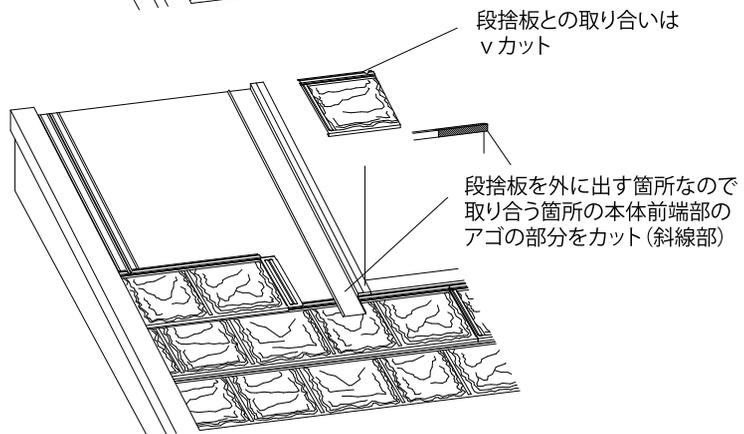
出隅部は下記の手順で施工してください。



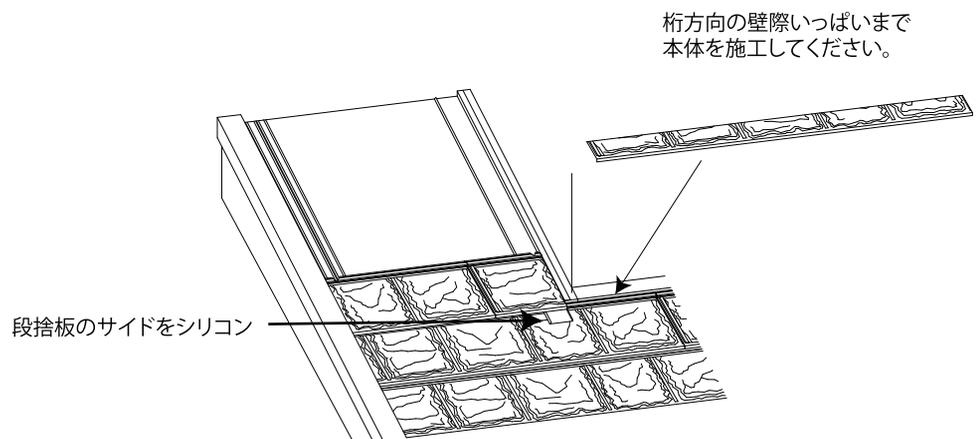
流れ方向の壁際に木下地18×45を取り付けます。そのあとに、段捨て板を右図の要領で取り付けてください。



出隅取り合い部流れ方向側の本体を右図のように加工して取り付けます。



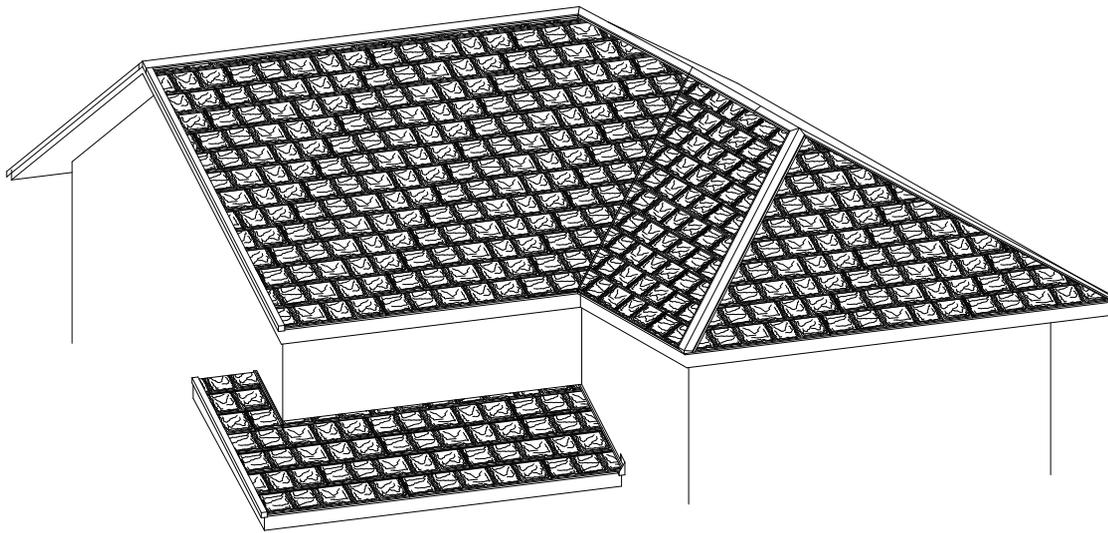
桁方向の壁際までの本体カットして取り付けます。段捨板の出ている個所の両サイドにシリコンを打ってください。



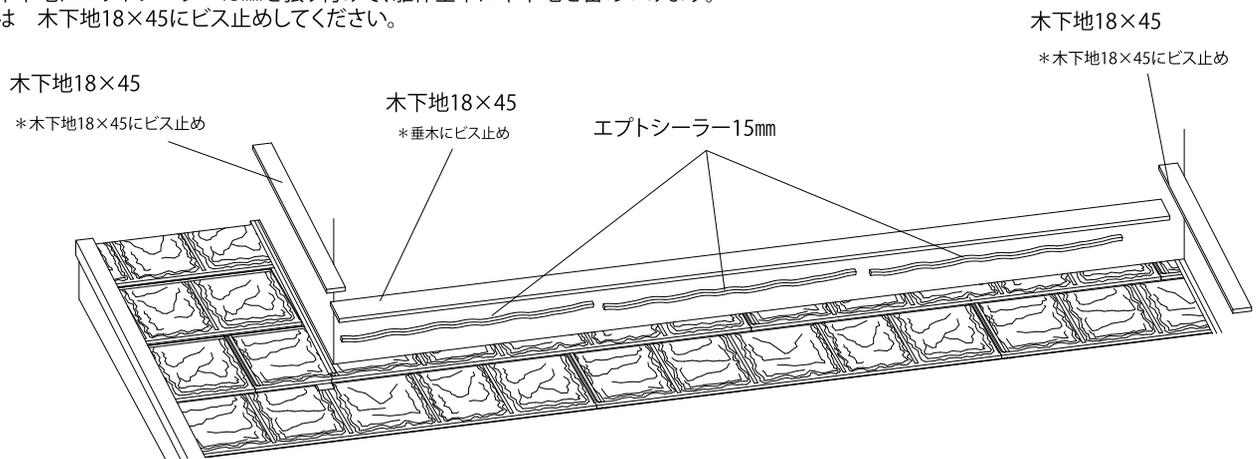
壁際の施工

雨押えの施工

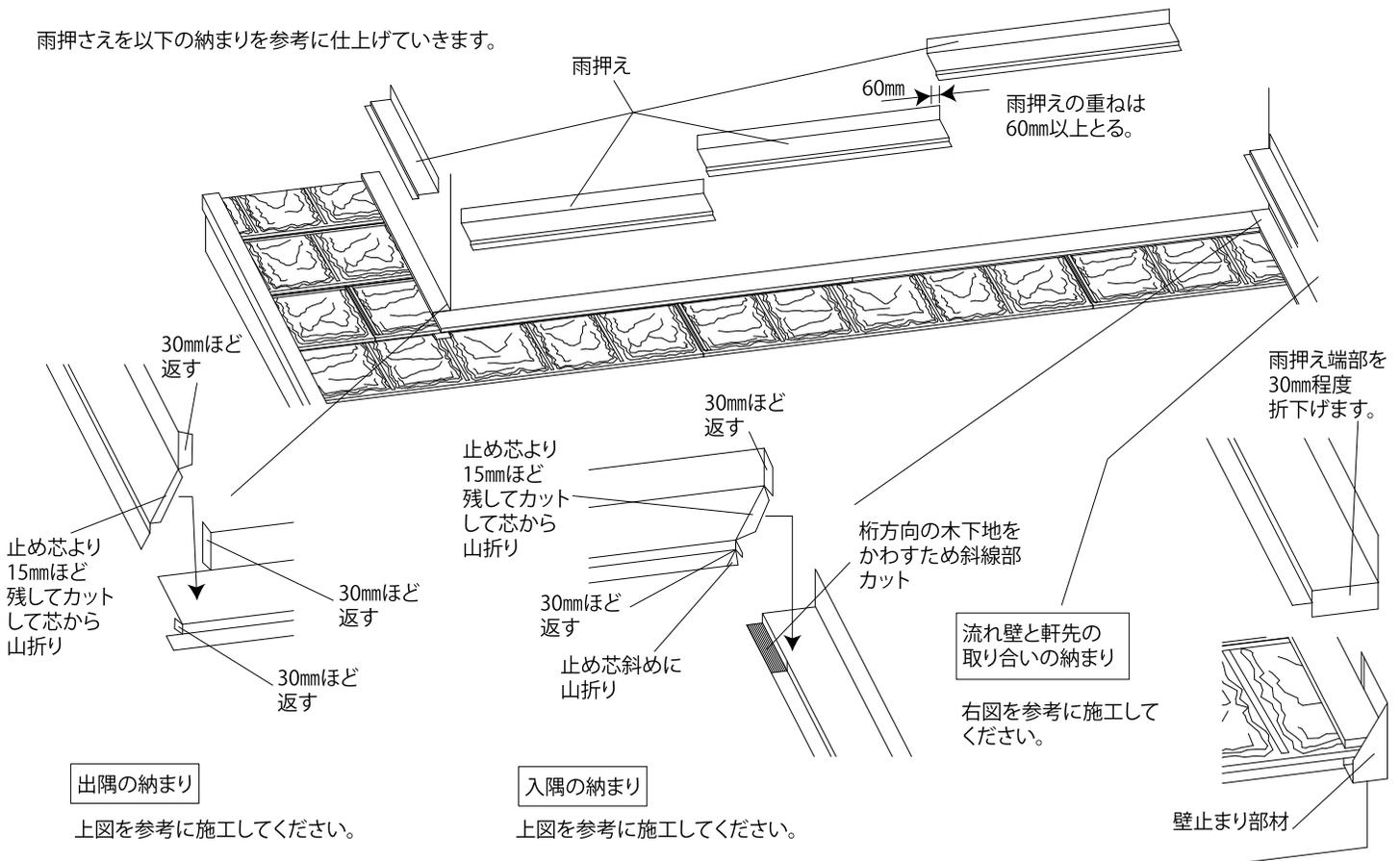
以下の手順で雨押えを施工し仕上げてください。



雨押えを仮あてして木下地の位置を決めてチョークラインで木下地の墨出しをしたあと、桁方向は木下地にエプトシーラー15mmを張り付けて、躯体垂木に木下地を留めつけます。流れ方向は 木下地18×45にビス止めしてください。



雨押えを以下の納まりを参考に仕上げていきます。



出隅の納まり

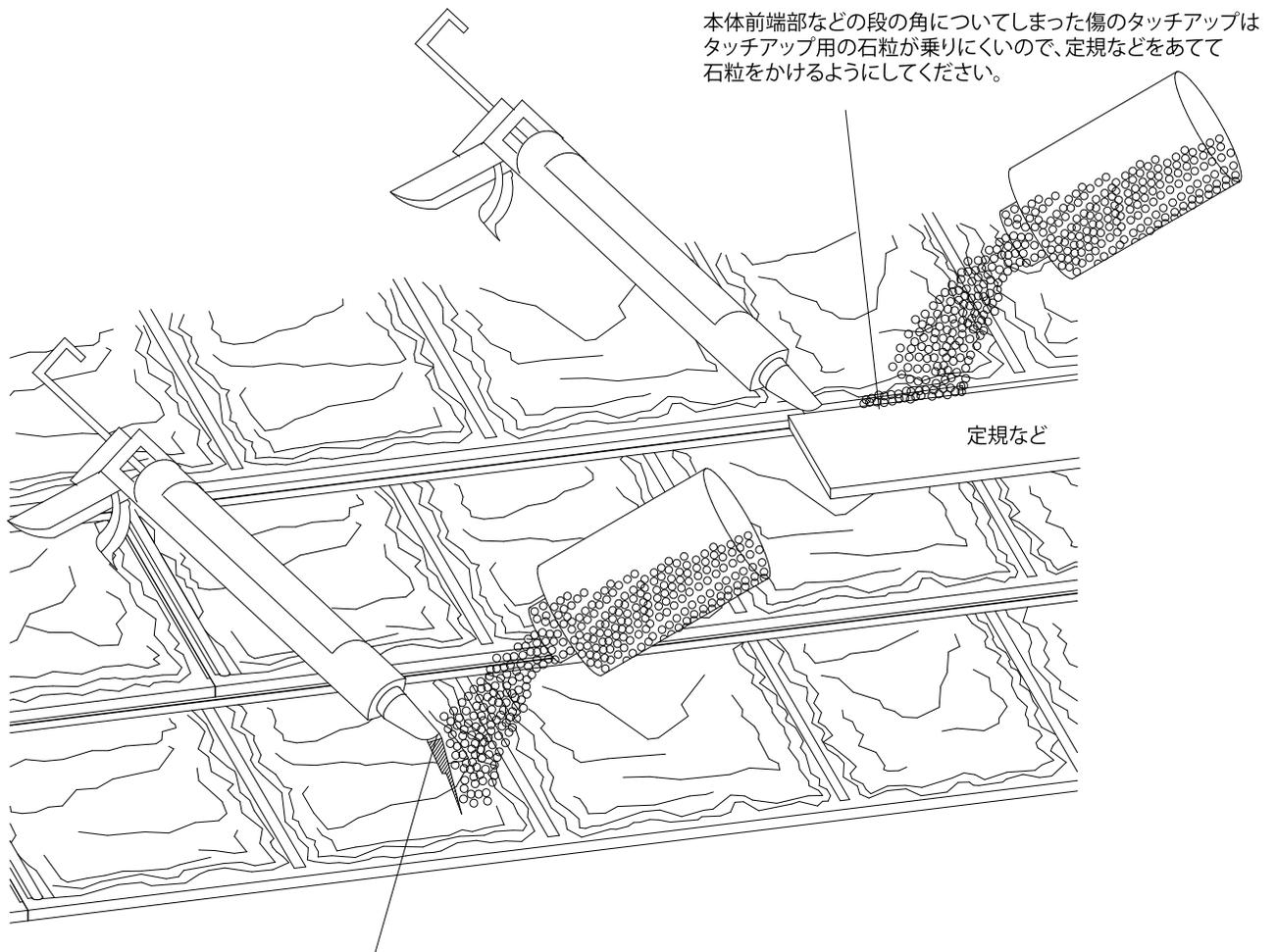
上図を参考に施工してください。

入隅の納まり

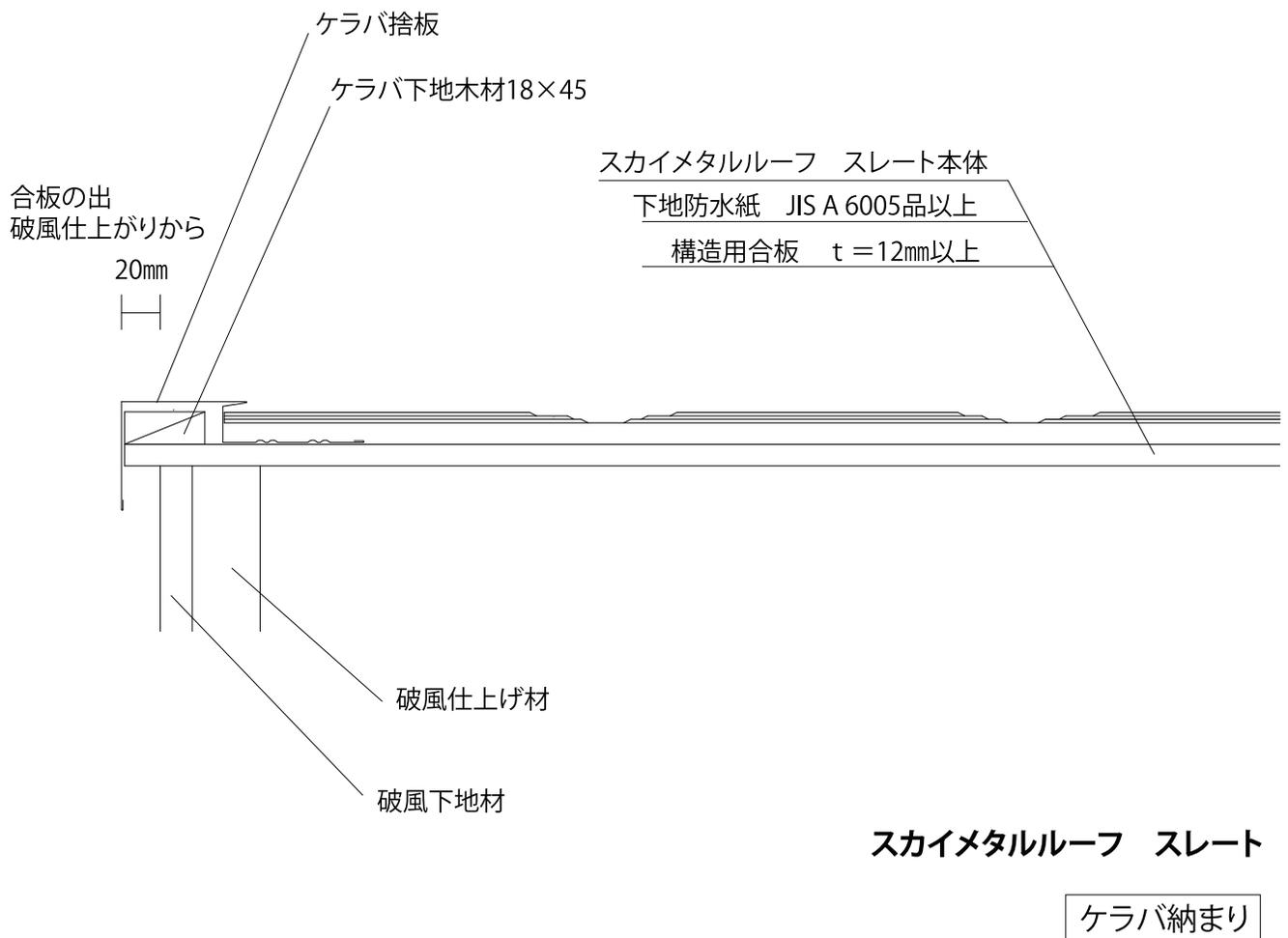
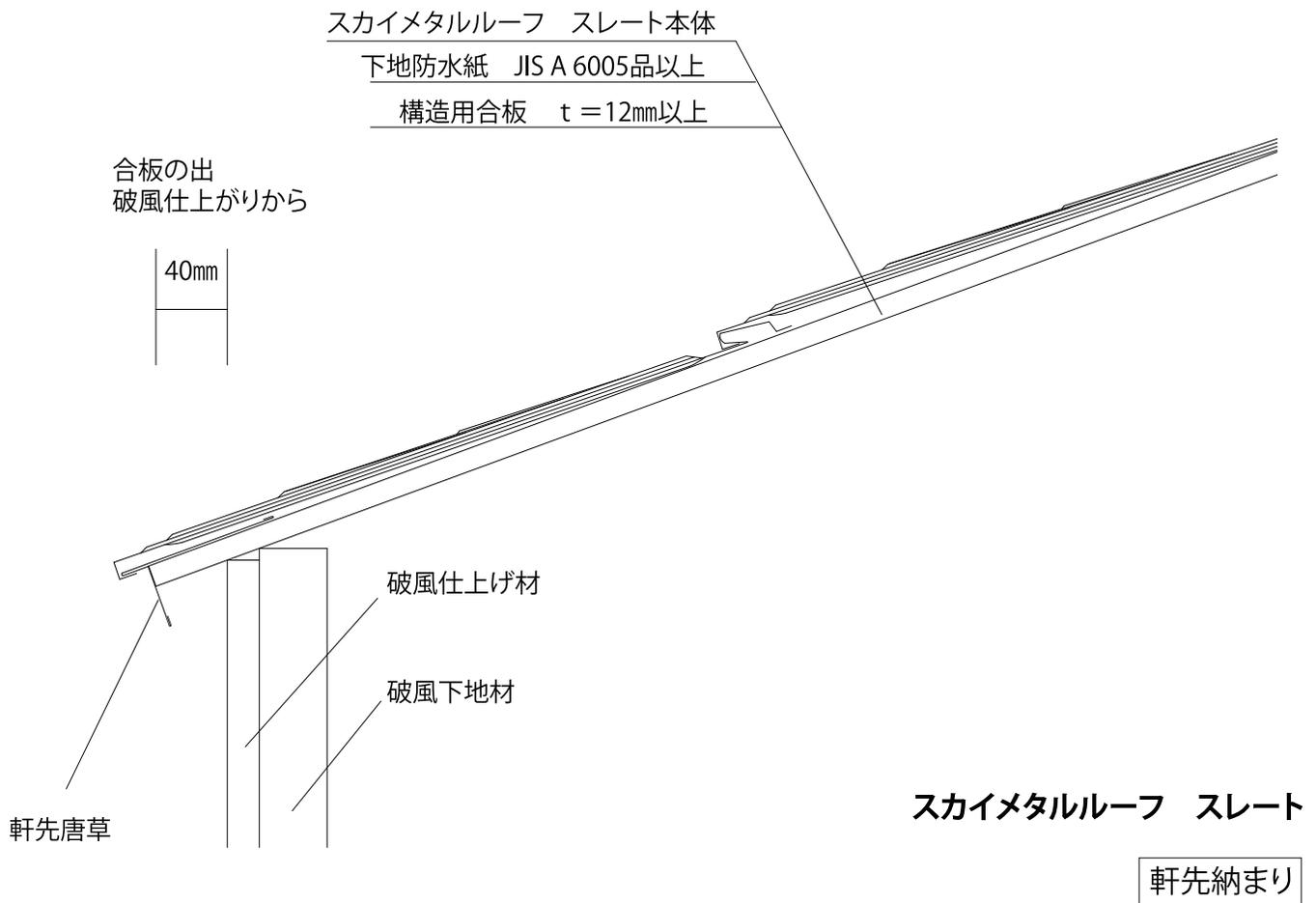
上図を参考に施工してください。

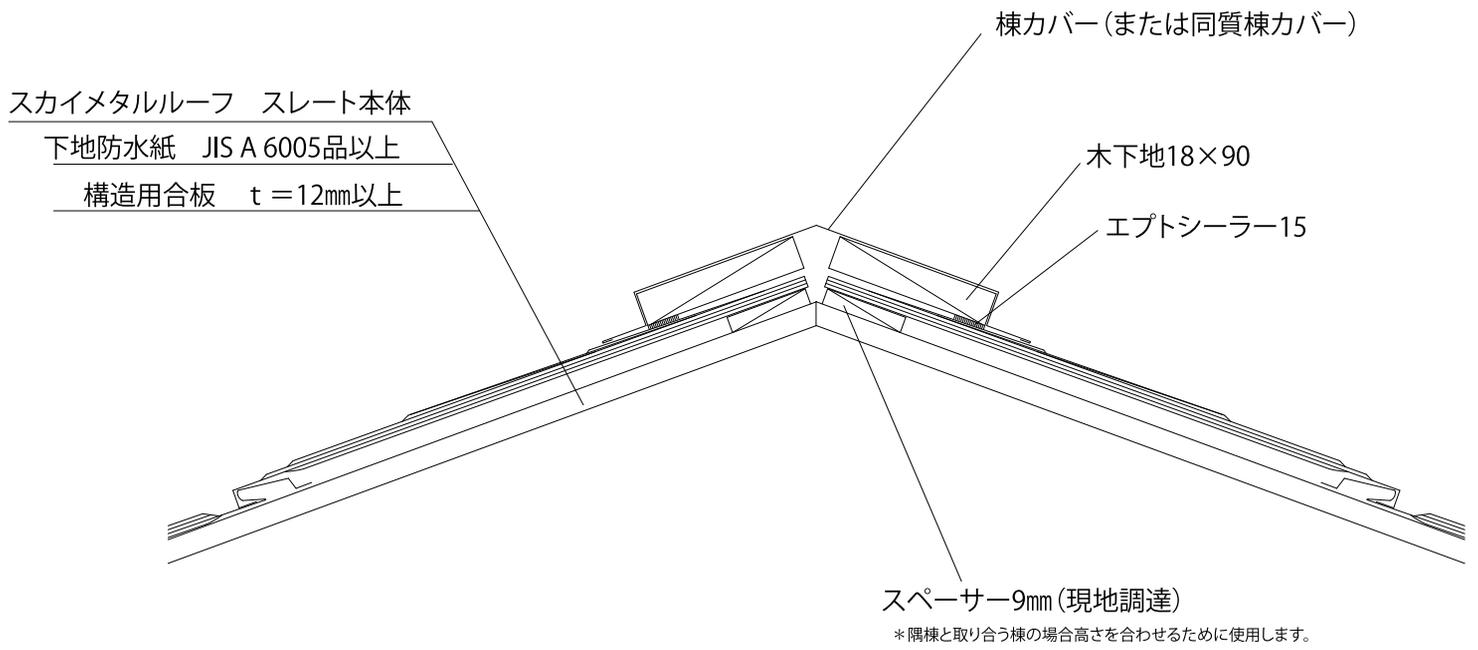
タッチアップの施工

施工中に本体等についてしまった傷は新茶色の変成シリコンなどを該当部に薄く塗り、そのあとでタッチアップ用の石粒でタッチアップして下さい。



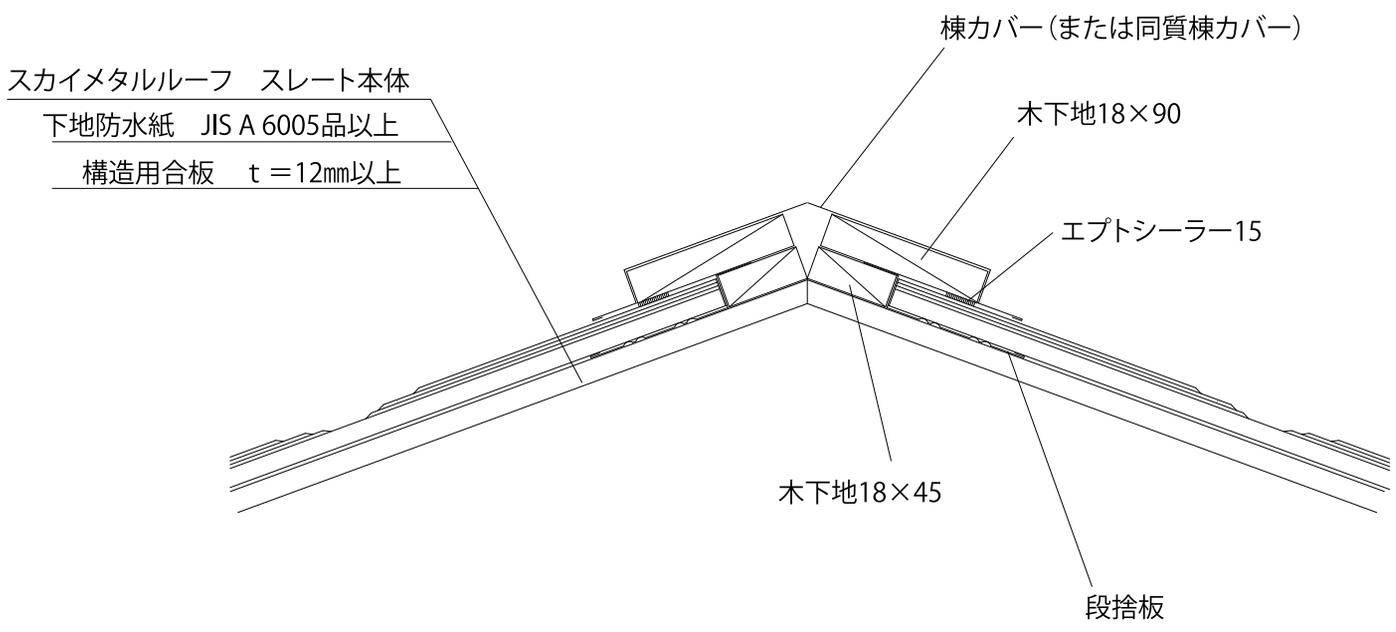
平坦な個所やビス頭のタッチアップはシリコンを塗りすぎず、薄く伸ばした後タッチアップして下さい。





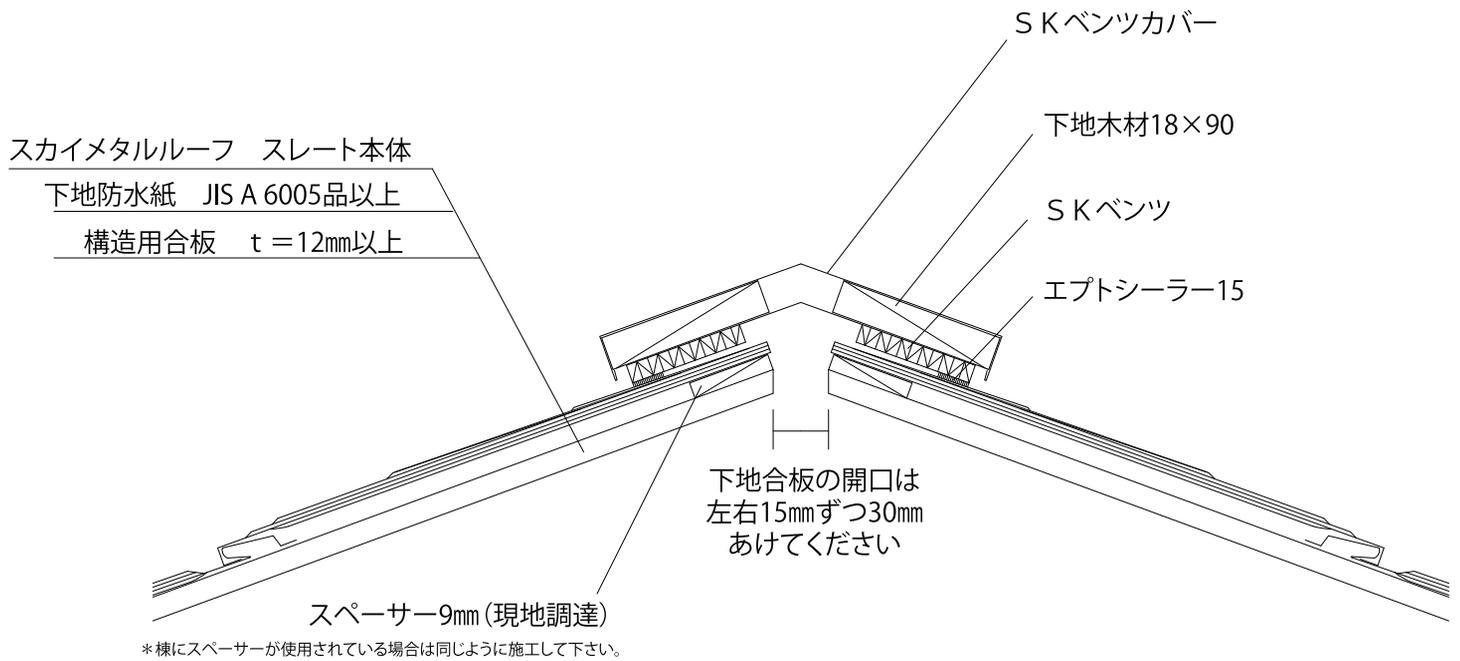
スカイメタルルーフ スレート

棟納まり



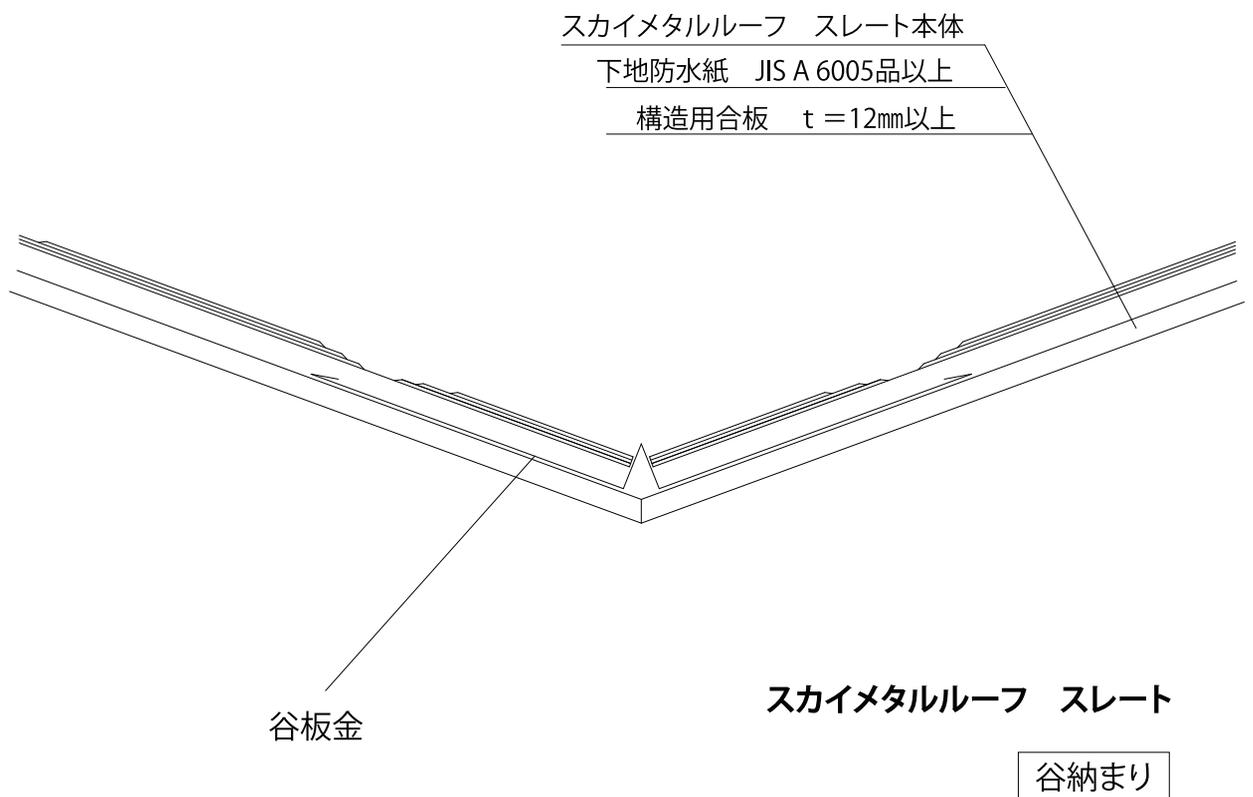
スカイメタルルーフ スレート

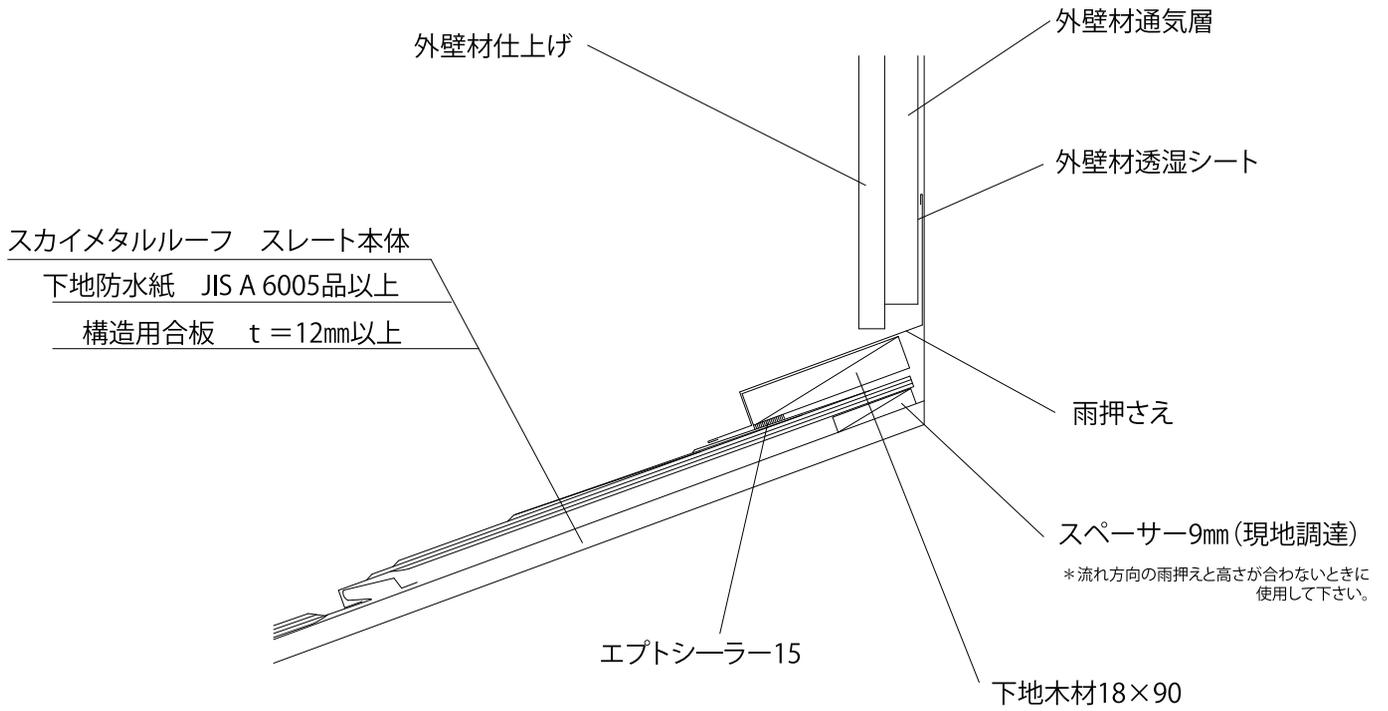
隅棟納まり



スカイメタルルーフ スレート

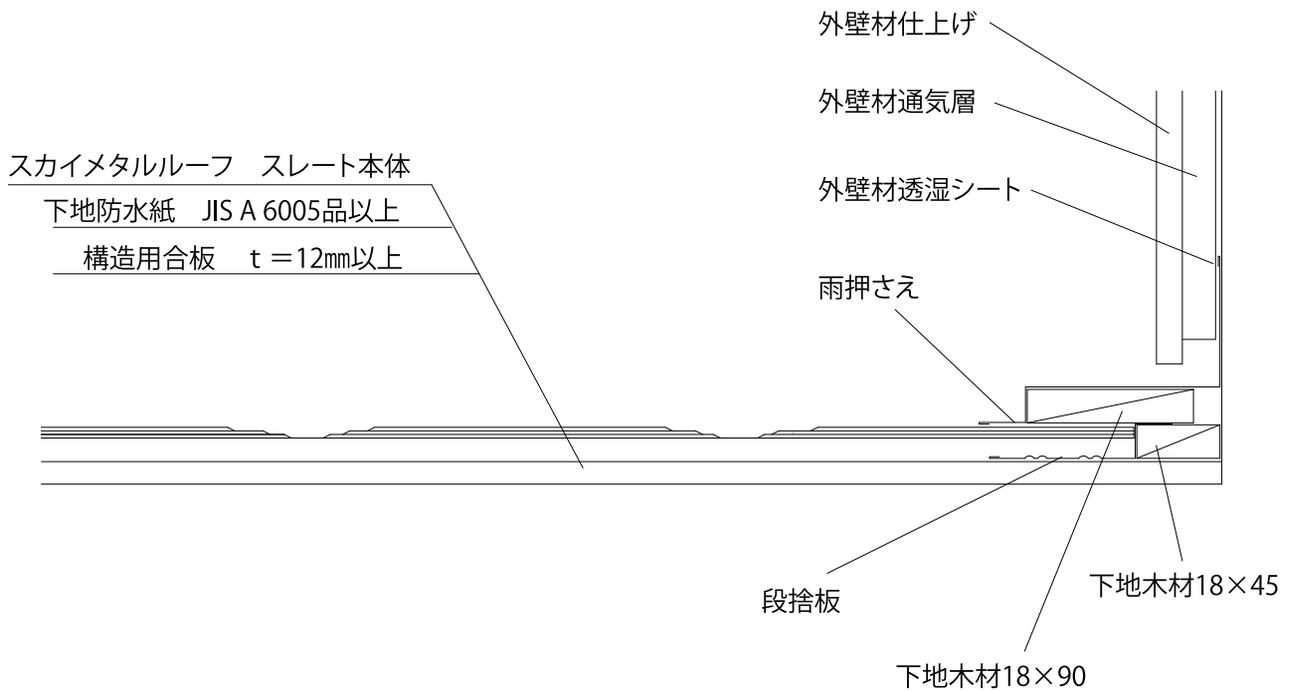
換気棟納まり





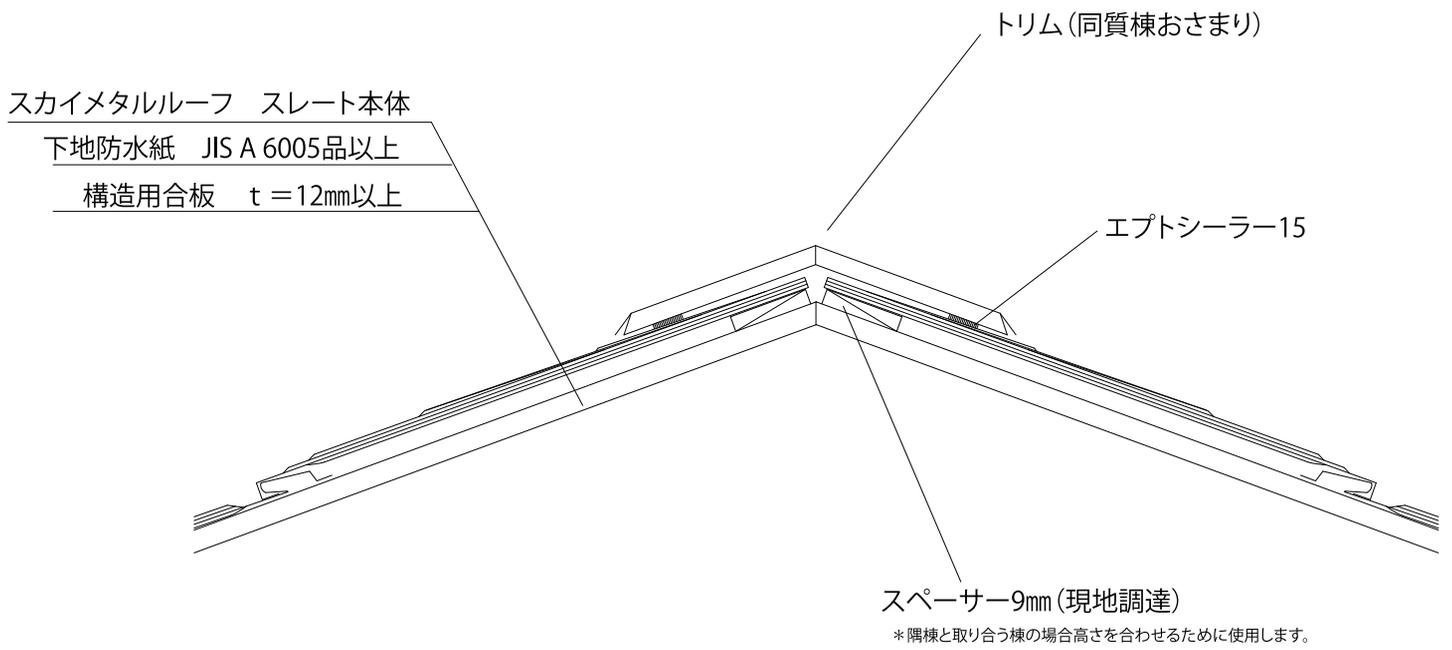
スカイメタルルーフ スレート

桁方向壁際納まり



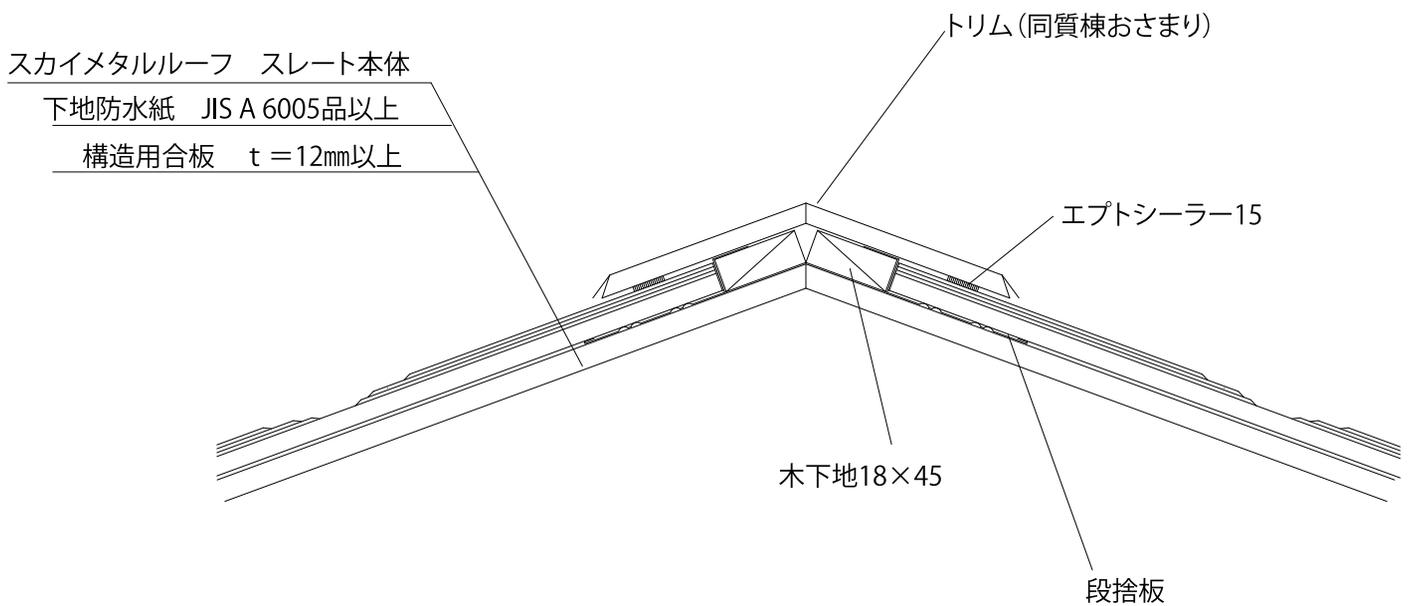
スカイメタルルーフ スレート

流れ方向壁際納まり



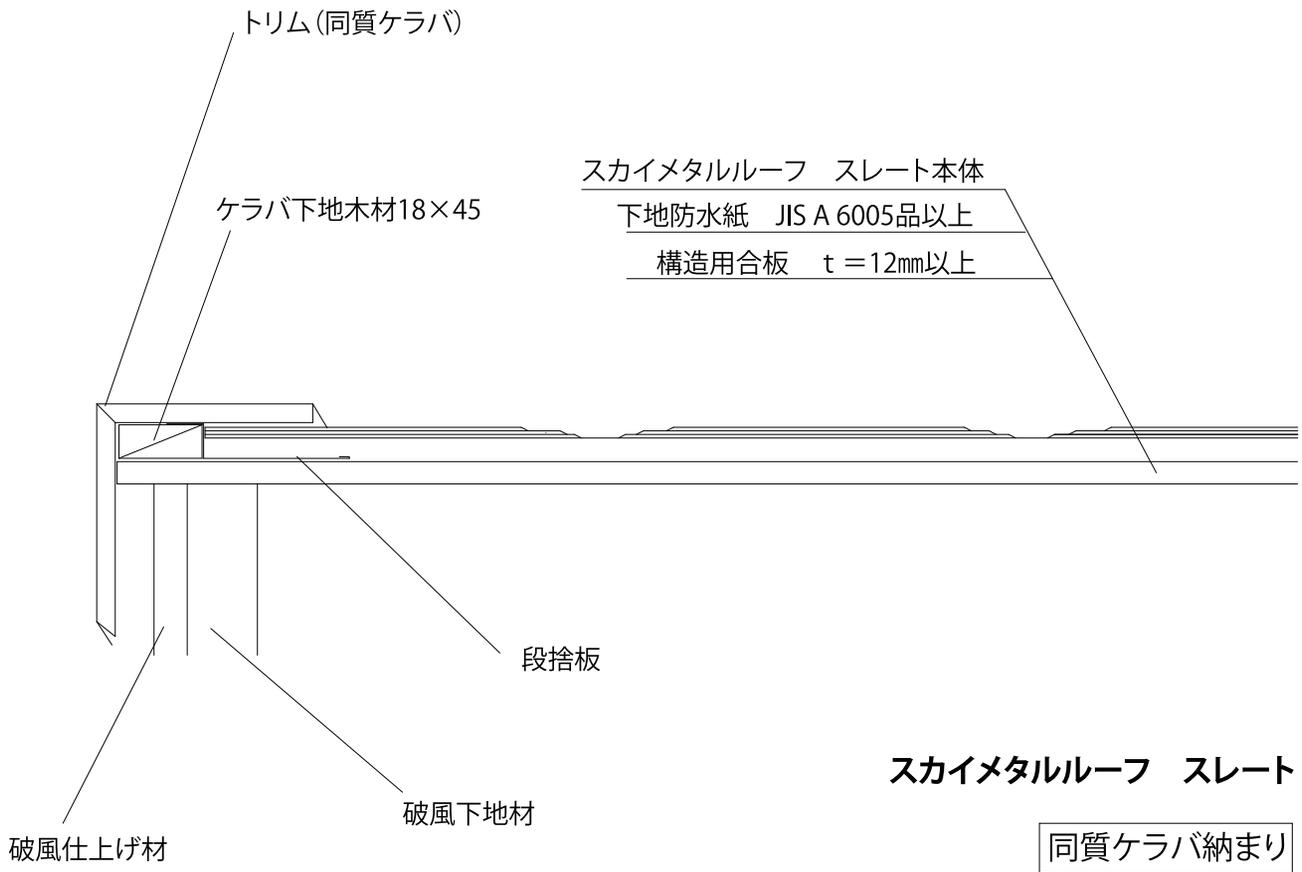
スカイメタルルーフ スレート

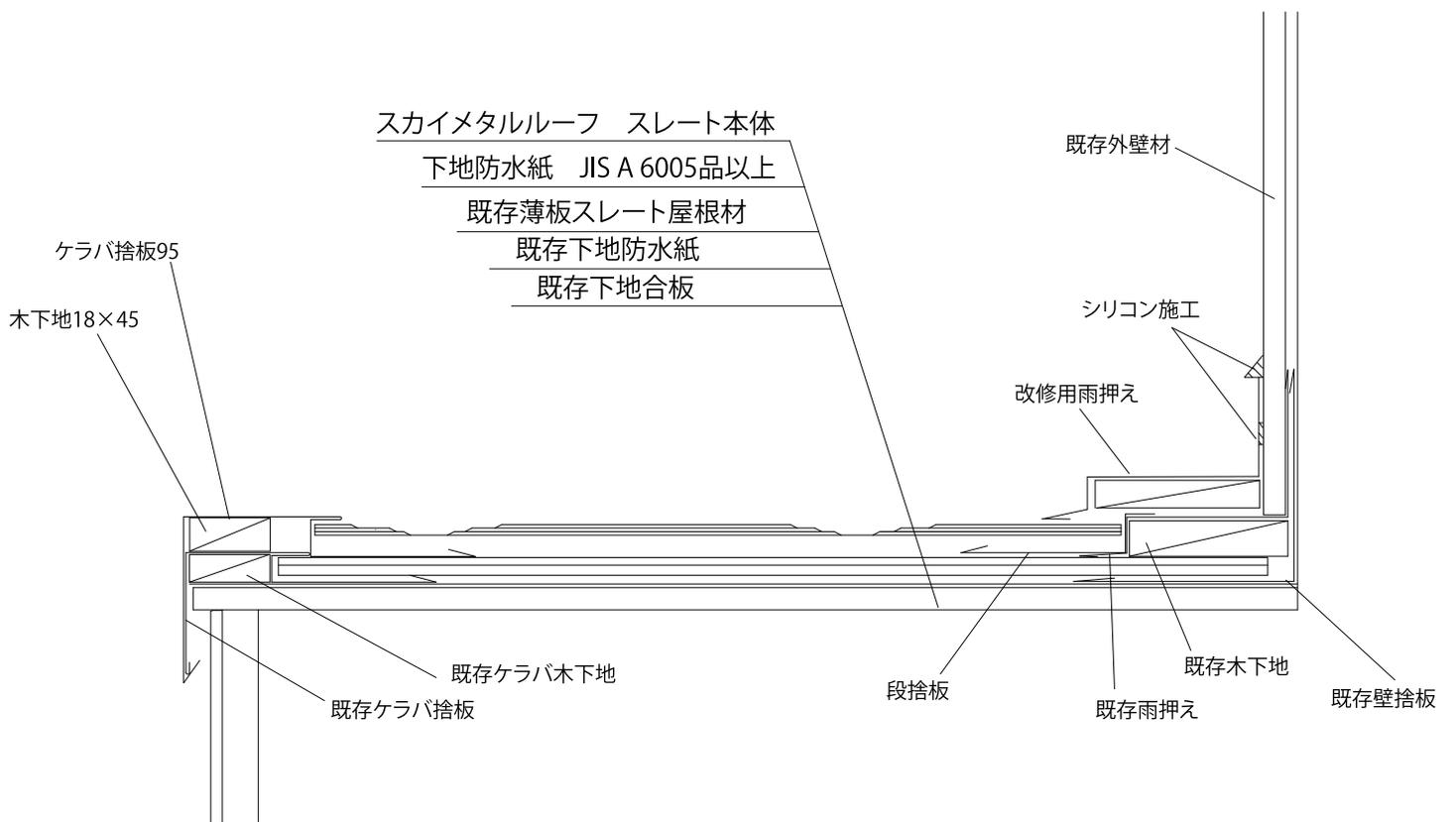
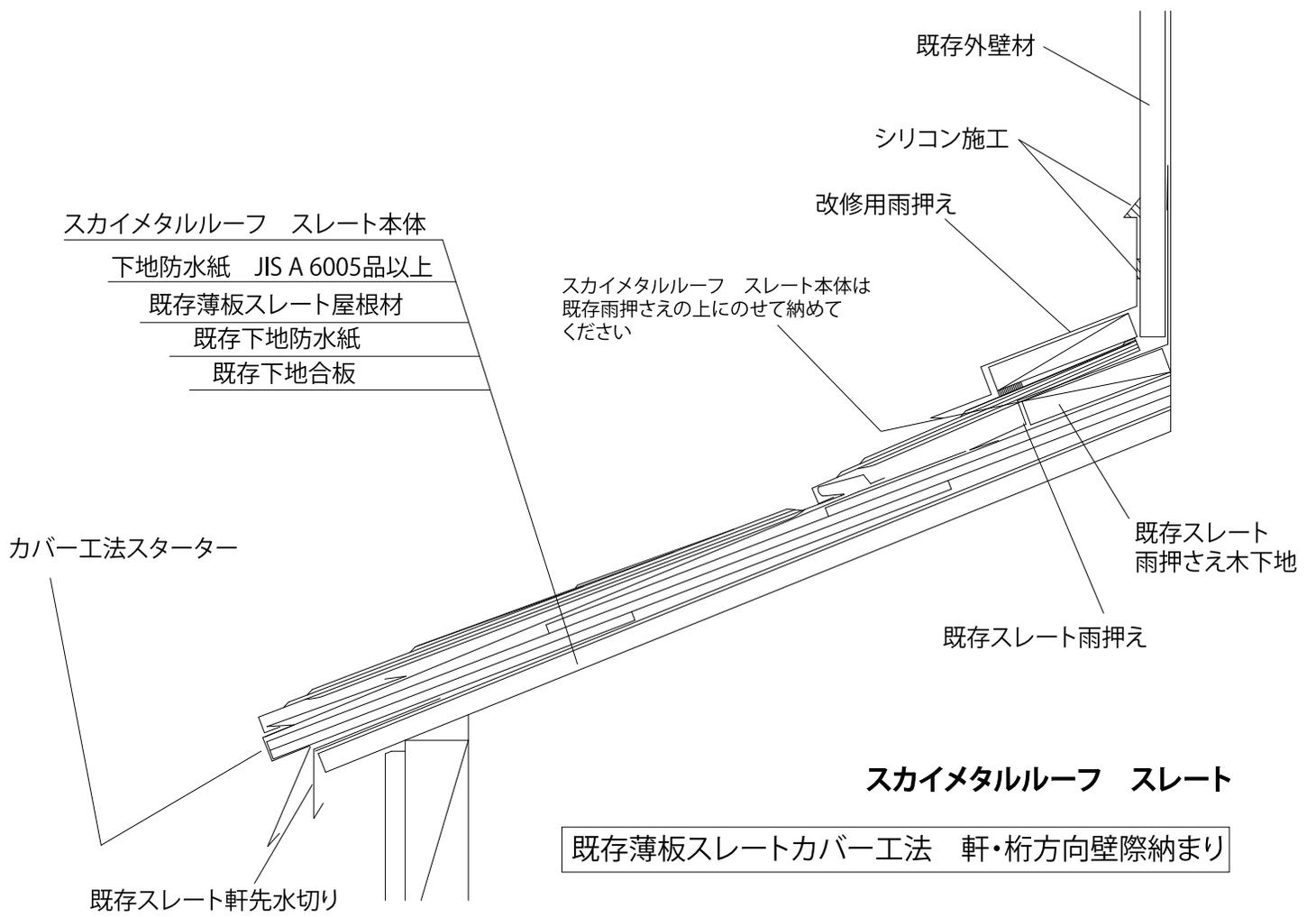
トリム同質棟納まり



スカイメタルルーフ スレート

トリム同質隅棟納まり





既存薄板スレートカバー工法 ケラバ・流れ方向壁際納まり

この説明書は専門業者様向けの説明書です。
専門業者以外の方がご覧になる場合は、
記載された施工方法以外で納まる場合も、
多々ございますことをご了承のうえ、ご活用
をお願いいたします。

禁無断転載

輸入販売元

伊藤忠建材株式会社

◆開発営業部 市場開発課

〒103-8419 東京都中央区日本橋本町2-7-1 NOF日本橋本町ビル 5階

TEL: 03-3661-1381 FAX: 03-3661-6631